岡本半溪翁 校閲
蘭畡仙史翁 著述

艸木圖解

盆栽培養全書

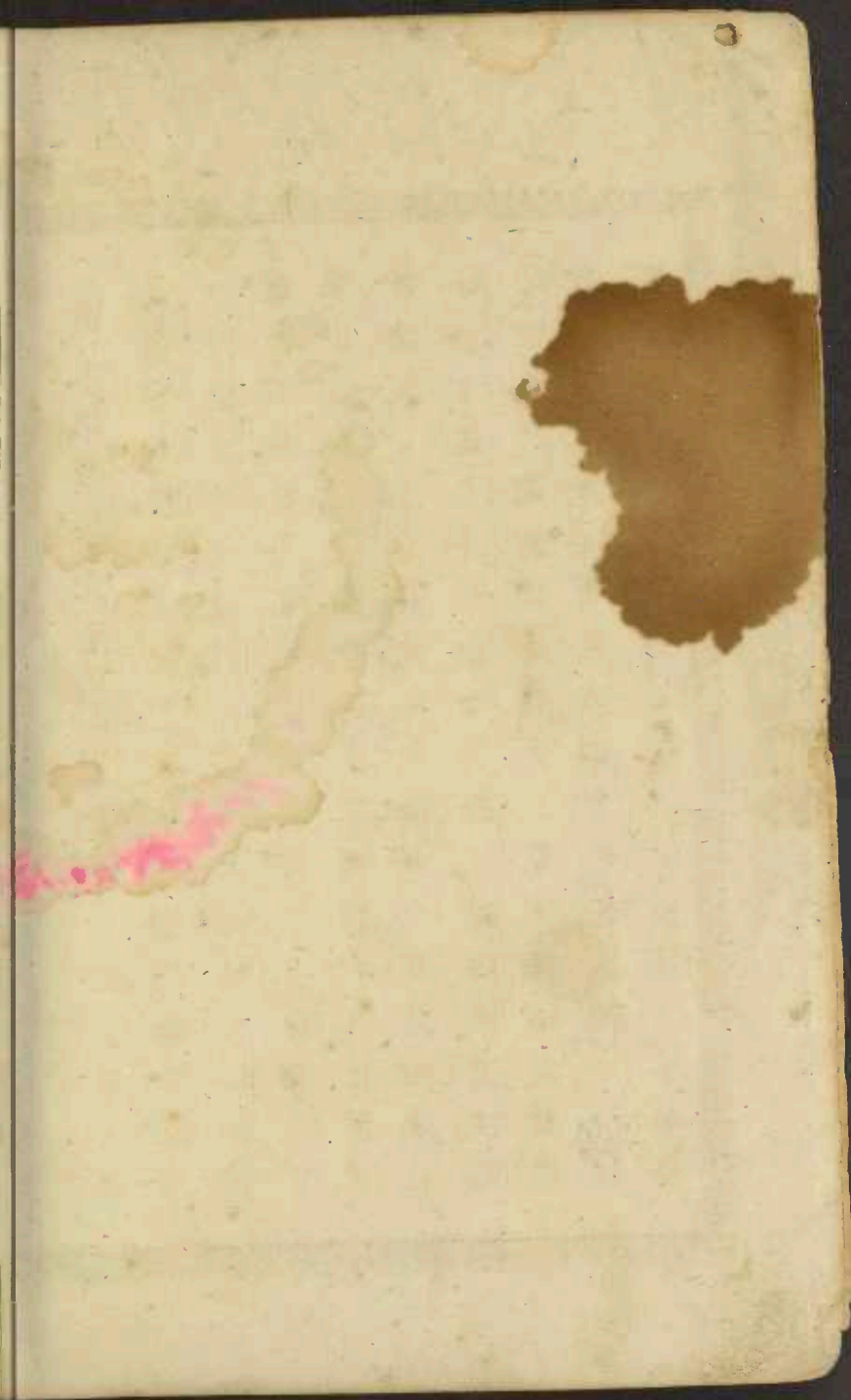
東京 魁眞樓梓

岡本半溪翁先生撿閲

蘭歐仙史翁先生著

草木圖解

盆栽培養全書

東京　魁眞樓梓

叙

古へより都鄙を論せす花木を愛するもの世に寡なからす近世文明の域に進むに及ひ愛翫するもの日に益々多く随て草木培養書の梓に上るもの幾百種なるを知らす予も亦曩に一書を著はし覆醤の具に供すと雖とも聞見甚た隘く纔かに花品樹種の一班を掲くるのみ今に於て遺憾となす然るに今や蘭欧仙史翁先生草木圖解盆栽培養全書を著はす書肆闘眞樓主人來て予に訂正を託す予の淺見安んぞ訂正する事を

得んや直ちに辭せんと欲するも愛花の癖徒に返璧に堪へす開てこれを閲するに凡り百の卉木網羅し盡し併せて其培養法に至るまて宛然一篇中に具備せり歎賞これを久ふす思ひらく同病相憐む何そ技の工拙を問はん一二雌黄を加へ以て其責を塞き其顛末を記して卷首に辨すといふ

丙申七月　　　　半溪撰

植木

培養土の事

凡萬艸萬木ともに其生ずる所其艸木に適する地質と温度によるものと知るべきなり左れば山に生するものに山土を用ひ野に生するものは野土をもつて植ると云ふは何れも注意する處なり去ながら山野に生する物と雖も盆裡に栽室内に入腐敗したる空氣に混ずる時ハ山野にありて新鮮の空氣に枝葉を洗ひし昔と變り譬バ鳥魚の人手に捕ハれて養を受ると更に異なることとなし鳥は山野にありて自由の食を得るも籠中にありて摺餌の爲に養を受け草木山野にありては雨露の惠の肥料となる此只動植物との差あるのみ故に元生ずる所の土を用ゆるよりも盆裏に栽又寸餘の小庭に植て養安き土を撰み用ゆるを草木培養法の本分と知るべし最土の性質などは多きものにて緻密に此を區別する時は却て用法に苦しむのミ左に掲ぐる處の十六種をして植物培養の用土となし數種混じ粗に碎きて用ひ細粉土として植るなど後々を讀て必ず了解するに致るべし

●眞土

此は最も天然土にして情質至極純良なり質はさらりとして砂の如き黒土なれども更に砂氣のなきものあり中まれ聊か砂の交りたるものあり此は克く砂を篩ひ分けざれバ用ひ難し又篩ひ分るも純良の眞土とは少しく異るものにて眞土のミを用ゆる處には悪しヽ是を他質の土に割りては栽ゆることありと雖も純良の眞土は黒松の類を植るに用ゆる土にて盆中に栽るなどは一層宜しきものなり併し餘りに乾き易き土質故何木にても用ゆるは宜しからず砂氣を含るものは砂を篩分黄土の克碎きたるを聊交て橙柑類を植れバ至極の適土と云べし芍藥には馬糞を少量に交て植る時は是又至て良ものなり

●赤土

何れも天然土にして少しも粘り氣なしさらりとして更に肥氣なし此を野土に合せて植れバ百合などは至極よし又黄土ま混じて植れは萬年青も適す棕櫚の如きもの或は萬両金等にも宜しきものなり土質ハ隨分乾き安きものなれども眞土はどにはあらず

●山土

何れも純然たる天然土なり山土は赤土と其質相似たるものにて中には赤土とあれバ山

土のことなりと云者あり此尤甚敷誤りなり山土ハ赤松を植るに適すれども他の諸木にハ外土を聊か混じて植る方宜しきもの多し野土に砂を少し交て植れば百合萬兩金の如き赤土より一入の適土なり萬年青の類には左程宜敷ものにあらず

●野土

此最天然土にして餘り粘り氣なし聊ゝ肥氣を含みて乾ハ中分なり此の土質ハ山土に等し野土にして黒み勝のものは他の性質によると知るべし純良のものは黒色をなし此に肥土を三分の一混じて用ゆれば草物に適するもの多し

●武藏野

是は眞の天然土にはあらず自然草などに化してなりたる黒土にて此土は原野に多くありて堀出す土故中にハ野土と誤るものあり野土は別種のものにて武藏野は通稱此を黒土とも云ものなり極眞黒の土を最上質のものとす聊ゝ赤みを含めるは下品にして純良の質にあらず良質ハ原野又は古き竹藪より堀取りたるものにして少しも粘り氣なしさらりとしたるものなり蘇鐵などは一層赤土よりは黃土に混して植るをよしと云へり又木

蔭の茂みに生じたる草ものには適せり

●黒ぼく

此れ純粋の天然土にして其質至つて堅牢なり故に木の株やうなるもの丶上にて槌をもつて打砕極めて目の細かき篩に通し細末になりたるものを時によりて用ゆるとあり併し他質の土に交て植れば乾き遲くして根に腐を生ずる患なし種々のものに用ひてよし

●忍土

此の土は天然の化質にして人跡絶たる山間の木蔭などに落葉の化したる黒土なり併し山中のみに限らず古き森蔭又は年來の除溜底に自然と化して土となるものあれば是同く忍土なり然れども山中のものに比すれば肥料を含み過る物により用て良と用ひ難と云患あり一層人造忍土とて土中を掘りて木の葉を一年埋め置は黒土と化して更に天然の化質と異ることとなし尤埋置こと二三年のものを上等とす凡て何草ものに限らず忍と赤土を合せて植れば差支なし中には極適土のものあり併し赤土の割合餘り聊なれば卿によりては肥過るものあるべし

●黄土

此れ天然土にして黄色のものなり肥氣なしさらりとしたるものあれば粘りありて固まりたるもありさらりとしたるものは他質の土に混じて植料となし粘りありて固りたるれ粗碎きにして鉢底に入れハ至極水抜よく根の腐敗する患なし採掘するにさらりとしたるものを得んとせば乾地を四五尺堀べし粘氣あるものを取るには濕地を三四尺計り堀れバ容易のものなり尤さらりとしたるものに赤土を交ぜて植れば蘭百合萬年青蘇鐵棕櫚芭蕉の類に適すべし

●田土

此は天然の化質にして積年耕作をしたる古き田土に限り新田の土は惡し、又古池或は沼などの自然埋りたるを堀出せし古き田土に劣ることなし何れも克篩て根株又は芥小石の如きものを除き肥土に混じて用ゆべし田土一色ハ惡く固り易くして堅く乾き濕る時は度に過て乾遲きものなり又黒ぼくの細末を交せて用ゆれば春の草花ものによし就中保童花櫻草雪割草翁菊等の如きは育ものあり

●溝土　又は渟土に同し

此は小溝或は渟池の土にて如何にも臭氣ものを掻あげ日に晒して小石芥の如きハ篩ひ取り此を黒ぼくに割れバ田土同やう草花もの丶よく育ものなり

●砂　採掘のもの

砂にハ數種ありて山手の砂川の邊より取たる砂あり白きも河邊の砂赤きは山手の砂にて白砂は上質なり何れも採掘の砂ハ土の粘りを加減するものなり河砂の極くさらりとしたるものも石菖を栽るによし

●寄砂

此も河の洲の如き處に寄たる砂芥なり克篩ひて肥土に混て植れば凡て草ものに適せり

●けとふ土

此は純然たる天造化質にて稻株の土中に化したるものを云へり然れども左にはあらず稻株の如きもの丶なき濕地より掘出すこともあり山より出るハ同質なれどもさらりとしたるは天然の土なり併し田の邊より堀取るもの丶如何にも輕き處を見れば此のみ化質

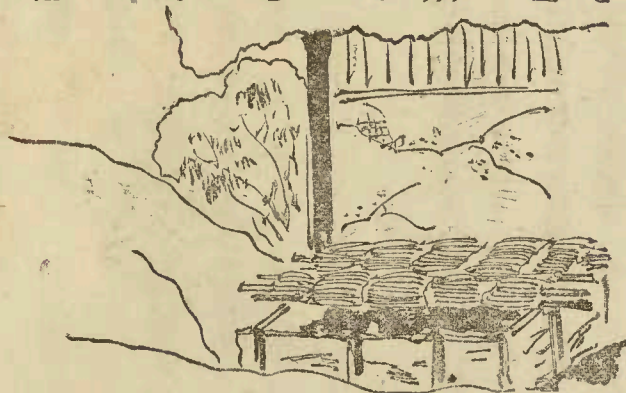
のものと云も可なり此れ何れも日に晒して鹿角菜の濃く解たるものに焼明礬を加へて錬合せ貝売の如きもの或は風情ある小石又は浮石のかけにても角々へ面白くつけて海中より取りたる石の如く造り石菖の類懲石斛など栽着れば至極趣あり又水吸もよし克育ものなり去ながら始終薄鉢に水を張り着け置時は自然崩れる愁あるにより下ずみの所はセメントを少し交て造れば如何にも堅牢の偽石となるべし

●蔭土

此は最も天造化質なれども再び人工質に直して用ゆべき土なり如何となれば森蔭又は庭の茂みにて更に日光を受たることのなき濕り土を云ふ此に人工を加へるには油糟を切込日に晒て沃土となし木の育ち兼たるものなどには至極適すれども草物には土の合せ方により却て害をなすことあるべし

●肥土

此は最も人工土質にして其時期寒前後の製造なるが故に降雪なき土地ハ安きことなれども積雪の多き地方ハ左に顯す圖の指懸をなし屋根を自由に取置するやうに出來雪中にても晴天の日にハ屋根を取り降雪の日ハ屋根にて掩ふ任懸に雪除をなすべし拵肥土を造らんとするにハ尋常の畑土を取りて四方を圖の如くに圍ひ寒に入て下肥を澆寒風に當寒氣に凍へしめ肥の乾きたるを見て再び灌ぎ此の如くすること三四度にして其上を莚或ハ菰俵に包降雪少なき土地にても板にて又其上を掩ひ春分の頃に至り日光に晒し細く切返すこと數回にして克く篩ひに通し一点の小石芥などのなきやう出來上げて用ゆれば何艸木を植るとも是に適せざるハなしし併し艸木の種類より他土を適度に合せて植ることあり

●三和土

野土　三斗　　赤土　一斗

眞土　一斗　　下肥　四半肩

先最初に三品の土を克混和して篩に通し小砂利の如きものを取除け其所へ下肥を入れ錬合て寢し置こと寒き時は七十日間餘暑中なれバ五十日程にて出來上るものあり此ハ植ものによりて合藥にする土にして用ゆる時肥氣を強くするにハ糠を焦て適宜に加ふべし左なきときハ藁灰を聊入るもよし併し三和土の他土より過料となる時ハ却て害とあることあり

艸木肥料の事

肥料ハ艸木毎に適不適なることと人の飲食に好嫌あるよりも一層甚敷ものあり譬ハ好まざるものと雖食し又食して知らざる他邦の食物ありともついにハ其食に皮肉を肥すことあるハ何れも知る所なり植物の肥料は此に反し灌ぎて肥る草木あり肥て花の着かざるあり甚敷に至りては忽にして枯るものあり故に此を知得せざれば肥料を施し却

て害を求むるに至ることあり去乍肥料は人の料食なり灌水ハ又飲料水なり左れば人食に過て胃を破湯水に過て腹内を害ふが如きは此同一のものなるにより艸木培養につきて心得べきの一端と云ふべし

●下肥

下肥は人糞のことにて生肥にて用ゆるハ宜しからず譬は人糞一荷あれバ水二荷又は二荷半の割合にして用ゆべし併し四季にて肥の厚薄あり冬より春の中ハ糞七分水三分温暖の氣候にありてハ次第に糞の量を減じ水量を増し極暑の頃迄にハ逐時に糞料減少して三分となし水を七分とすることなり此より秋季に至り又冬季に至る迄にハ候を逐て元の糞七分水三分にするものなり水ハ池又ハ溜り水の腐りたるをよしとす

●魚肥

此ハ魚の洗汁又は魚の腸などを桶或は壺の内に貯置此を土中に埋よく腐らせたるものに水を適宜に割りて用ゆ腐りの若きものには水を多量に割り克く腐りたるものは水の量少なきも差支なし

●鰮肥

此れ鰮を桶又は壺に入腐らせたるものにて水草の類に用ひて効あり

●骨粉肥

此は獣骨を製して骨粉となしたるものあり獣骨敗肉の類を焼粉にして用ゆるも其効同一のものなり艸花類には適せぬもの多し樹木にハ更に適せざるものなし

●淖肥

此れ淖池の腐水を汲溜米泔汁を交て用ゆるものなれども一層流し下の溝淖の汲溜を用ゆれバ白水を交せずして灌くも其効まさるものなり

●水肥

此れ水を根に灌く同様の心にて用ゆるもの故桶の土中に埋あるものへ水を一盃に汲込少量に糞を入れ克腐らせて灌くものなり水ハ池又は溜水に限るべし

●藻草肥

此れ沼又池などに生ずる藻を搔上克く腐らせたるものを木の根へ入るも肥料となるも

のなり艸物にハ餘り適せず

●廐肥

此は馬の踏荒したる寝藁にして惣て艸木の芽を早く萌さんとするに用ゆるものなり

●油粕

此は粉にして根に入るもあり水に解腐らせて澆くもあり尚部分により用ゆる草木等は下にくハしきことあり

●灰

此ハ人糞と交せて用ゆるものあり竈下の灰を用ゆるあれバ藁灰に限りて効あるもあり尚下にある物類の部にて見るべし

●糠肥

此は三和土に交ぜ又ハ竹類に用ゆ何れも少し煎てよし

●烏賊肥

此烏賊の腸及洗汁を桶に溜竹類に用ひて効あり餘り肥過る患あるにより盆栽には適せ

ず

●米泔汁

此は米の泔汁なり倚下に用ゆべき艸木の著しわるを見て知るべし

●糟肥

此れ酒糟にして籾糠を少し切交て煉置何時にても用ゆる時割肥を混じて用ゆるものなり

●豆肥

一大豆　一斗　　一水　二斗

此を少し養立たるものを貯ひ置用ゆる時原料壹升へ水二舛を合せ用ゆべし又艸物にて質の弱きものには水を多量にさして用ゆるをよしとす

又一法

一生豆の潰たるを一舛　　一水　一舛

此を克く腐らせて後次第に水を和して搔まいし用ゆべし餘り薄くなりたるときは豆の

潰したるものを折ゝ加へ腐敗したるを見て水を加へ薄くして用ゆ何れも豆肥は元仕掛たるものを原料として肥料とするものなり何種を論せす草木に用へてよし

●馬糞

此は暑氣を嫌ふ艸ものに用ゆ肥の仕立方は克く乾きたるもの一舛に水八舛尿べん七合の割合に交せ貯置て盆中へ澆げば至極よきものなり又芍薬寒牡丹などには粉にしたるまゝにて根に入るもよし根本に置て大に寒を凌ぐこと妙なり

●獸肥

此れ土中へ桶にても埋置其内へ小便を溜猫鼠などの死したるものを入置其浮上りて腐敗たる時肥料として用ゆべし枇杷又柑類ゑ施して尤効あり又浮上りてよく腐敗したるものを林檎の根ゑ埋れば其翌年殊に多く實を結ぶものなり

●鳥糞

此は何鳥に限らす一種の効あるものにて土に混じて艸物を植れは他肥の及ぶ處にあらず又一時乾し置き用ゆる頃に至り水に解き薄きものを春は雪割艸櫻艸保童花秋ものに

ハ菊の類に用ゆ此の肥料を用ひたるものハ花瓣の艶色常ならざるものなり

●松魚節肥

此は松魚節を削り克煮たし滓を取棄用ゆべし尤一種の良肥なれども蘭又は万年青の如きものに限りて効あり餘り濃きものハ却て害あり日を長く經たるものをよしとす

●茶滓

此ハ肥料中一種のものにて暑さを嫌ふ木の根へ掛置べし艸ハ常盤艸戻摺木は南天の如きものに用ゆるものなり

●貝肥

此は何貝にても其儘水に浸し克壚氣を去潰して桶に入れ又水を入れ腐れてのち肥料とするものなり尤効あるハ磯松及松などにハ至極妙なり

草木仕立方の事

夫萬木諸艸ともに枝を曲葉を摘木振を直し高き木も低く造り人工にて培養したる物も天然の姿を顯ハさしめ若木にて花の着かざるものハ砧木に接花を咲せて盆栽となし實

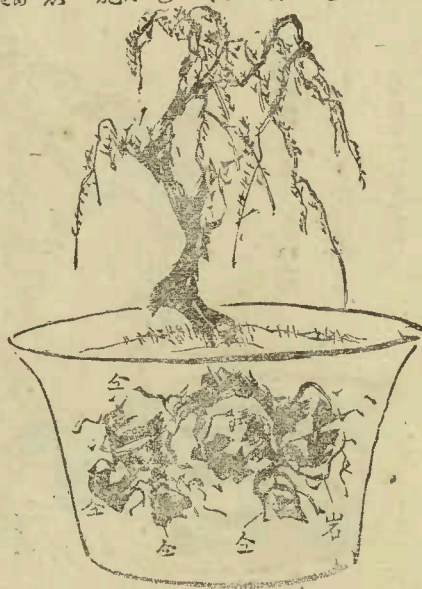
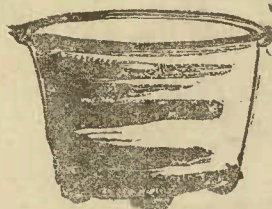
の結難ものは枝を剪根を切取り土を替へ肥料に加減し花の早く咲難きものハ窖に入れ温度を僞り時候を取違て咲べき春の來ると思はしめ花莖延て見苦きものは根を責て此を縮ましむるなどを最仕立方の本分と云ふ故に此の部に限りて草木仕立の事を述るにあらず何れも盆栽とする草木の仕立培養にあらざるはなし又庭木と雖も大同小違にして庭木仕立も同樣なり譬は接木の部より起りて接木種蒔灌水雅俗の盆栽ハ元來花壇庭物の部に至る迄一も仕立にあらざるはなし殊更左に掲ぐる五六種の仕立方ハ注意して見べきものなり

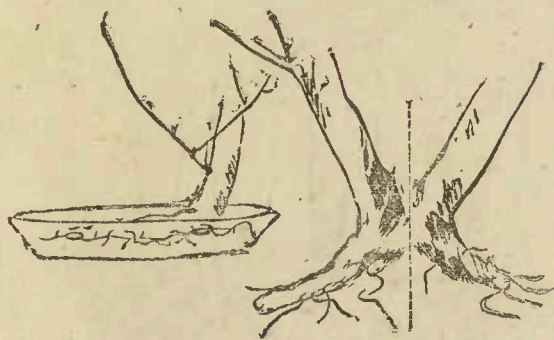
○圖に顯すものハ花開きて長く保たざるものを數日間咲せ置法にて如何にも手際もの丶栽培なり

蕾圖の如く笑ひかゝりたる時小刀を根に衝込根先をきり旣に開かんとする勢をくぢ

き根へ充分の水を澆水勢にて無理に開らかすれバ幾分小形に咲なれども時を得て開きたる花の倍に保ものなり併花後は地に下して培養すべし

●圖に顯はしたるものハ天然に生する所山間幽谷などの岩間石上に生育したるものゝ類を盆栽にするは如何よも六ケ敷ものなり山より取り來るには壹本の小根先を切ても植つかずして枯ものにて活たる後ハ地馴染て肥過徒らに枝葉延し風致を失ふかゆゑ根再び植替る時盆裏岩石にて根を責小根先より漸く木の盆鉢を養ふ工合に植込べし仕方は圖の如くになして植替をするものなり

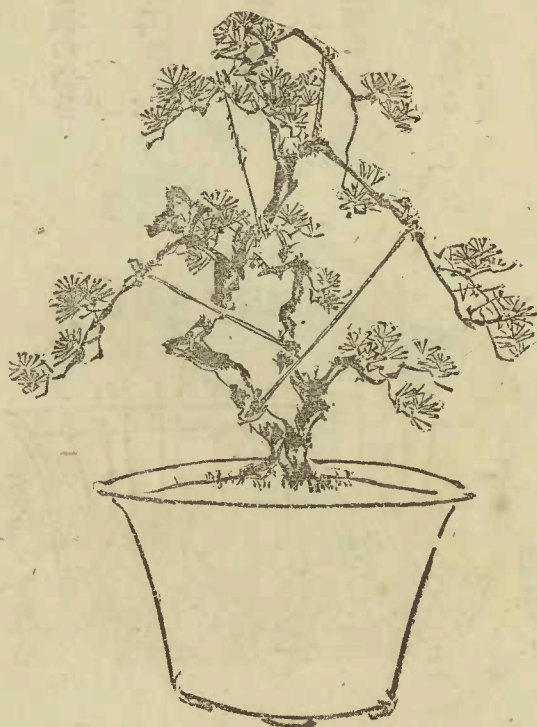
●圖に顯すものハ性質蔓のものをして木の如く短く低く造りて盆栽となすものなり其

法は年々芽を吹前に栽替根先を短く剪取て栽れば芽の出る時延少なく花数多く着ごと妙なり蔓物の内藤の如き是なり又藤ハ冬に至り葉の殘らす落ちたるを見て鉢に移すハ尤もよし又木藤といふもあれども如何ゝも少なきものにて何れも根の切込にて木藤と見せたるもの多し故に毎年萠芽の前に植替をなし根先を剪むべし左なき時はもとの蔓となるものなり

●圖に顯す處のものハ雅賞すべき盆栽にて殊に梧桐の如き大株を小鉢に栽込んとする
には太き根を切棄小根を殘して充分盆裏よ
生育するやうに仕立るものあり尤太き根を
一時に切取るとせバ枯る恐れあるにより最
初ハ二尺斗殘して畑へ栽込小根の生育する
を見て二度一尺斗り切取植込こと前に同し
三度にして圖の如くに切取素燒の鉢に植て
培養することなり根の鉢に馴染てより陳列
する鉢へ移すべし尚詳きは雅賞の部に明の
なり

●圖に顯す處のものは平角の長鉢へ植込大株を切分根先を切取り鉢へ馴染やう丹精するの順序にして圖の如く股の木なれば二つに引割立根を切取横刺の根を殘し幹も短く斷て一度畑へ植込二度根先を切棄三度にして七八寸斗りに切詰畑に植込こと三度小根地に馴染み充分生育するを見て陳列せんとする盆裏に採り眺とするものなり何れも目先の新しき盆栽を仕立てるは辛苦のものなりと知るべし

●圖に顯す處のものハ何木によらず枝より根を下させるの法にして其根を下させんとする箇所へ傷をつけ其の所へ圖の如き仕掛をなし置けバ根を下すものなり先第一素焼の鉢を枝に通さんとするは尤難きこと故工合よく二つに割り鉢底の穴を大きくなし木の枝に宛外部より繩にて責輪をかけて後土を入えたより竹にて鉢受を造り置ことなり又鉢の裏へ植込の体裁をなえたるものは枝下より小鉢植と迄にしたる形を圖きたるものなり

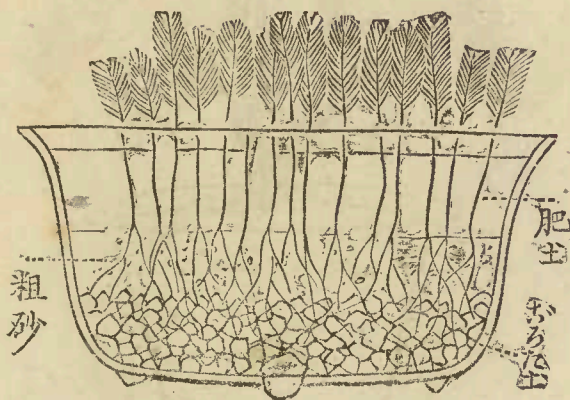
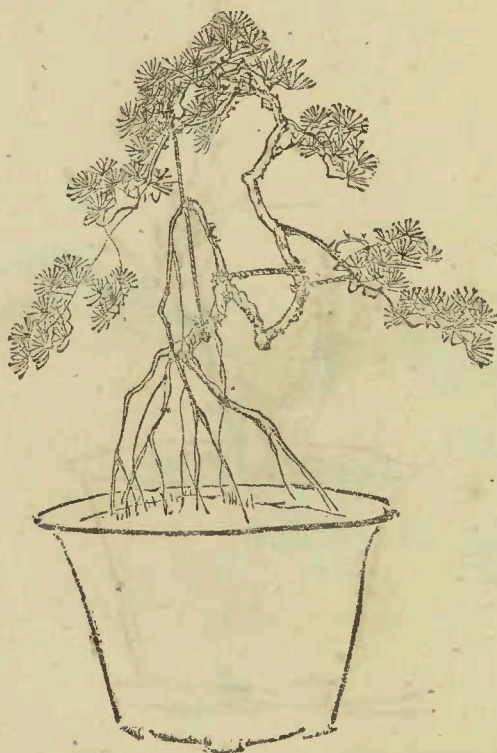
●何れも枝より根を下させる仕掛なり前に圖するものとおなし只鉢と菰との違なるのみ

●鉢を割ずに蔓へ通したるは葡萄の類にて素焼鉢の底穴を大きく廣げ蔓先より根を下ろさせんとする所へ鉢を下し受を造ること圖の如くになし置けば忽にして根を刺すものなり又鉢詰の土は充分肥氣のあるものに限りあまり降雨のなき時は薄肥にて鉢の土を潤れし與ふべし

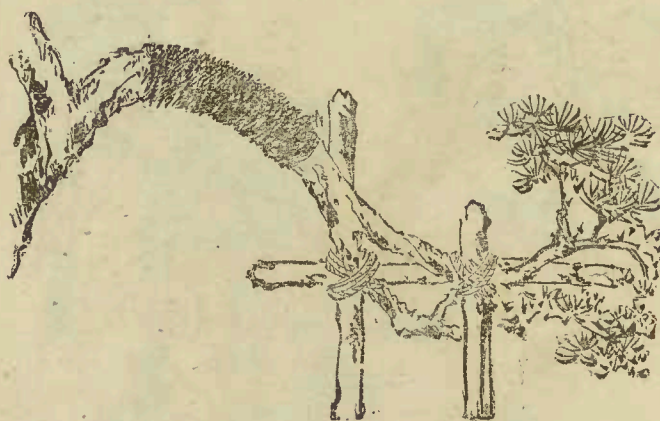
●松

圖にある物は古木なれども先實生の二三年位より枝を蕨繩にて引つけ古木の姿につくるものなり充分枝を曲るには綠の頃をよしとす

●根上り松の蒔床

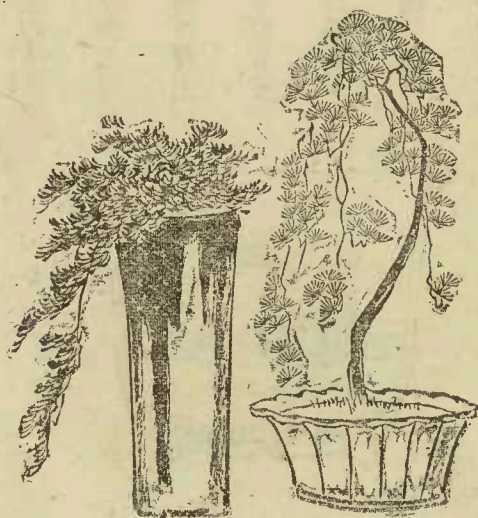
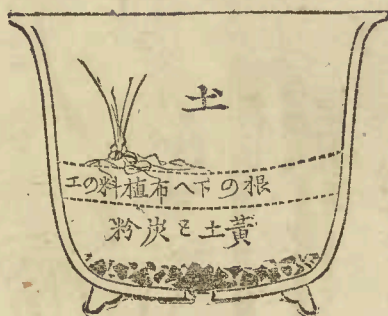
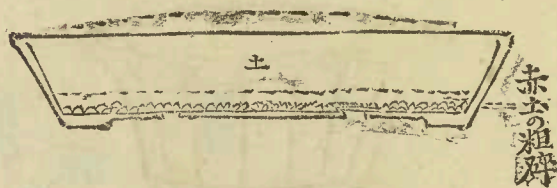
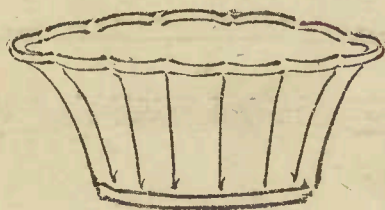
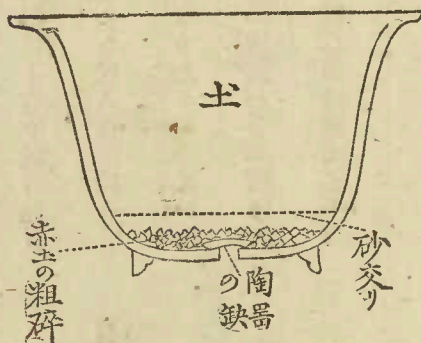
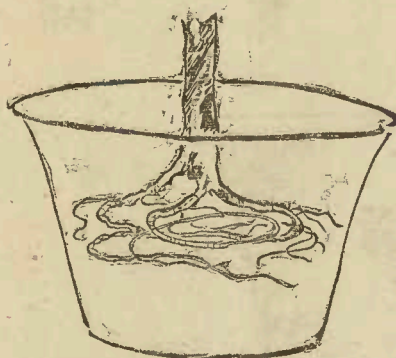
根上り松を仕立るには圖の如き床を造りて蒔立るが故鬚根は粗砂を跨ぎて細く延二股三股となるものなり生長して後植替る時第二圖の如くするも缺して枯ることなく根上となるべし

其二

蒔立より三年位いの緑前に植替て根上りとすれバ仕立の丹精次第にて圖の如くなるものなり尤蒔床にて鬚根數本になりたるものに限り上品になると知るべし

●梅

花咲て後は殘ず枝を切棄古根も切取克根を篩古土を振落し新土の極細なるを入れ克根の間〻へ廻るやうになし土を堅くせざれハ來春花着こと少なし

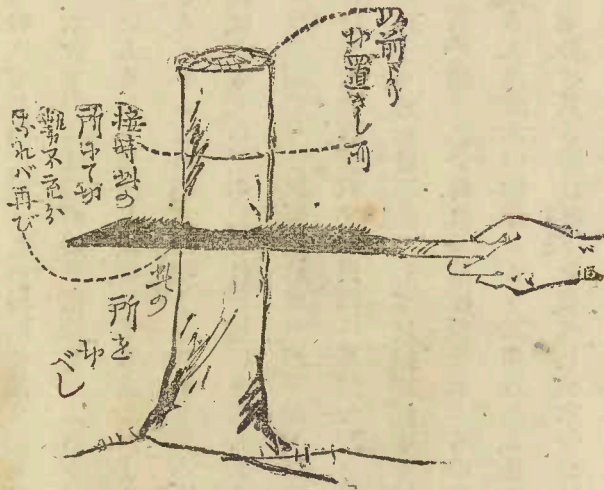
●大木小樹となく圖の如く自由に捻り曲んとするには枝先の股へ横木を着け捻り出したるなれハ柔かに思處迄一捻にすることなり若し一寸にても手緩るミて跡へ戻る時は捻口より忽に風這入りて其枝枯るゝものなり尤若木の小枝なれば手輕きものなれども大木ハ容易に出來難きことゝなるべし

●圖に顯す處の松樹は無理に枝を曲げず自然に枝の地よ垂るの法なり此は實生より七年ぐらいの時水邊の小高き處へ植込をけば枝伸るに隨水に臨みて天然の風致を備へるものなり此の培養方は黒松なれバ早し赤松は遲きものなり

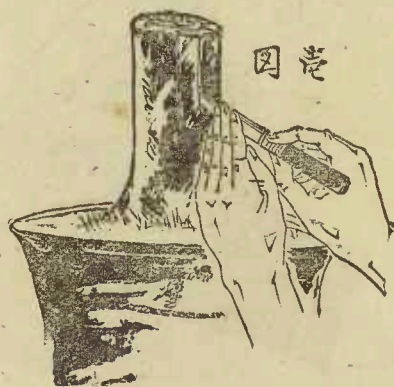
盆栽心得の事

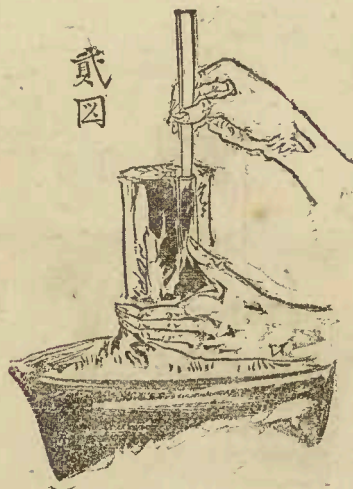
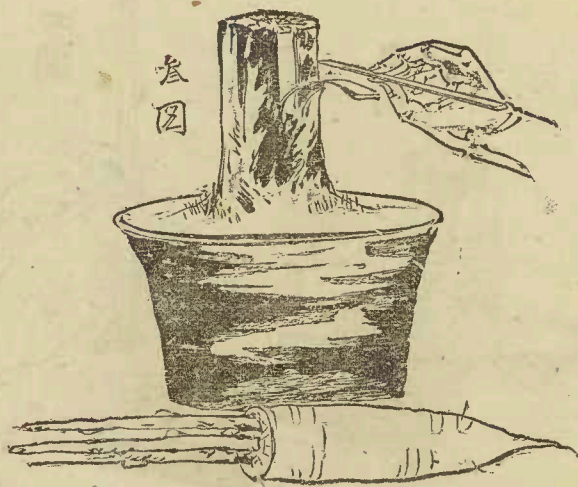
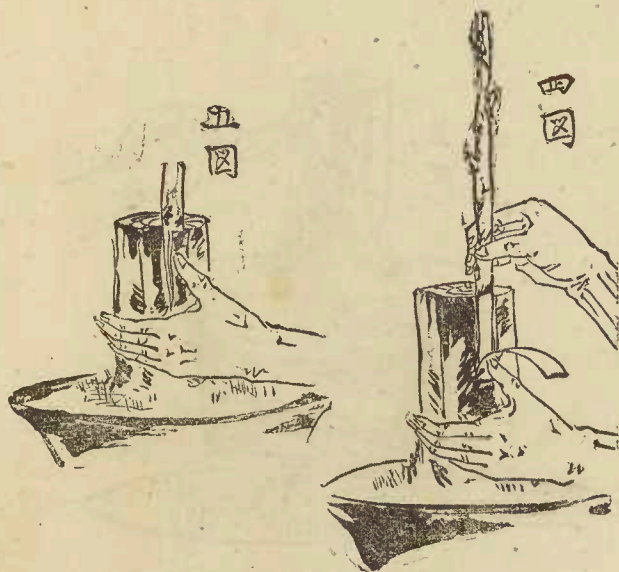
●艸木の何たるを問はず盆裏へ栽込とたは盆中の工合如何にも六ッケ敷ものにて第一水抜のよたやう注意することなりそれには圖の如く底の穴へ陶器の缺を掩てよし又赤土の固りを粗砕にして穴を掩ふも水抜よくして根の腐なし左なき時は穴を陶器の缺にて掩ひたる上及其周圍へ砂利をまき其上へ一側砂を引てのち植料の土を入植込ものなり植込方の注意は尚此の後丁に於て明らかなり

●蘭を植込には盆の底を殊に注意すべし鉢の底穴は陶器の缺にて掩ふも宜しけれども木炭の手頃なるものにて空ぶせとなし其上をは圖の如く角張たる炭の細かきものを引又其上の一側ハ黄土の粗ら碎きにしたるものと炭の粉になりたるものとを交せ布きそれより植料の土を入れ都合よく植ることと圖に記如き土配りにすれバ蘭の生育至極よきものなり併し人によりて種ゝの植方をなせり

●圖に顯す處ろの盆中工合なるものは長角の極底き平鉢にて此の裏へ植るは概雅賞すべき植もの故盆の低きを愛して眺とするにより其栽込都合如何にも六ヶ敷下手にすれバ土薄きか爲め枯るゝの愁あり土を厚く入れハ無闇に盆裏の土高くなりて其不体裁なること眺むべくもあらぬものとれありぬ併し圖の如き土の配りにて植立つれバかゝる愁なく植込の時根の扱ひ等は後を見て知るべし

●圖に顯すところのものは鉢の裏面素燒同樣の陶器なり此質十中の八九支那燒にて盆栽中薔薇に適すること素燒の仕立鉢に異ならず余先年數十種の薔薇を栽込し時種〻の鉢に植込生育の如何を試たるに素燒鉢の外圖する處の如き良質のものなし鉢の形ちも俗を離れて大いに趣きあり世の好者一度植れば必此鉢を愛せり植込方は別に異りなし只底穴大ひなるにより注意するのみ

●圖に顯す處の鉢なるもの信樂燒にて此も支那燒同樣何栽ものにもよく適して生育のよきこと類の少なきものなり鉢の形ち下細にて水吐好く故に蘭の如きもの育て鉢として用ゆれバ他に其類を見ず又薔薇の類にも適すると支那燒に勝るも劣ることなし去ながら鉢形ち野鄙にして室內の陳列にハ供し難し只注意とするハ鉢の丈高くして根下に伸安けれバ低き鉢に栽替をする時の注意をなして植込べし

●圖に顯す處のものは鉢裏の根扱なり惣て根の扱は注意すべきものにて素燒の育燒なれバ根の鉢肌よ着も障とならざれども陶器の鉢肌に根の障るは甚宜しからず故に何鉢によらず圖の如き根配よなし植料の土をそろ〳〵と入根の間へゆき滿るやう鉢へ土の一盃になりたる時手柔かに前後左右に動かすべし若根の透間あり其所に入て鉢面の土減すれバ土面を直し如雨露にて土の聊か潤ふ程に灌置べし

●接木の事

凡て接木は艸木培養の缺べからざるものにて其法に至りてハ根接枝接皮接身接搭接壓接の六法なれども第一根接にて砧木の太きものには二梢接三梢接といふあり其他種々の接方ありて揷接あり水接あり共接といふもあり又同じ根接にても人々によりて少し宛接方に差あるものなり先接木をなさんとするにハ臺木の勢よきものを撰み梢は二年位の如何にも勢分強きものを接べし物によりてハ三年位の枝を梢にするもあり接方は某々に圖を顯しあること故爰にも陳るは無用のやうに似たれども艸木仕立物の内最眞の術なれば解上に解を加へ注意の上に注意せざれば六法の内殊にも接がたきものあれば又接安きあり就中接安きは皮接に壓接なり最初は手初として皮接壓接より接覺へ後に根接搭接と順にすれば更に心得なき人と雖も必ず何れも接げぬと云ふものなし

何接によらず接んとする時臺木を切詰るには砧木の勢分により元切込ある長さにもよることなれども圖の如くに切て勢分不充分と見る時は其下を切べし砧木の切口に勢分弱ければ梢の勢何程強くとも缺て接げるものにあらず又臺木を餘り下迄切下げて不都

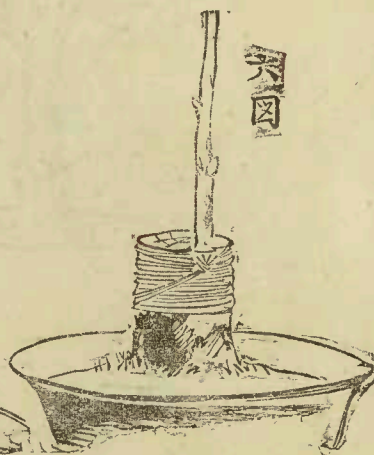
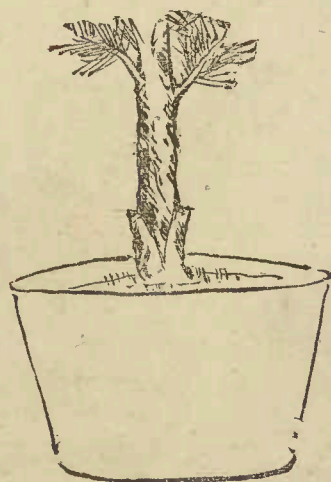
合なる場合(ばあい)にハ身接の擺接にするも差支(さしつかへ)なきものなり尤此等の工合(ぐあひ)は數本手にかけるうち自然(しぜん)に手減(こつ)の知れることにて其他(そのた)は實物(じつぶつ)に就(つき)研究(けんきう)するの一端(いつたん)とそあれ

●根接

根接とは挿接のことにて砧木の切口は鋸目のあきやう小刀にて削とり梢の太みと同様の幅に砧木の皮へ小刀にて切込こと圖の如くゝなし尤上より下まで幅の廣し狭しのなきやう注意して切こと肝要なり此の圖は鉢植なれども地植のものにても更に異ることなし

此は前に小刀にて切たる所を先の角なる篦にて柔かに剥すべし尤注意せざれば剥起す時過つて逆に皮を折る如きことあらば用をなさず故に左りの手にて圖の如くになし拇にて下を押へ上の方より剥かけるべし尚其後の始末は次の圖にあり

貳図

此は第三圖にして前に剝かけたる所を全剝したるものあり何木に限らず上皮と木肌の間に脂肪皮あるものにて此を篦の先にて圖の如くに掃除したる所へ梢を當ざれば必ず活ものみあらず去ながらあまり手間どりてハ其間に木澁を吹出し活ぬことあるべし

此之第四圖にして第三圖にある蘿蔔刺にしたる梢を手早く削圖の如く羽目込ことなり尤砧木の切口と梢の削口とよく合やうにすること肝要なり次に第五圖の如く剝起したる皮をば上よあて其上を麻緒にて巻こと第六圖の如くにすることなり巻ゑ手加減あれば第六圖の上にて詳きを見るべし

此は第六圖にて麻緒にて巻たる有様なり巻ヿ手加減ありて緩く巻けば締り悪し強く巻けば精分の廻乏しくなるにより充分注意して巻べし第七圖の藁を被たるは切口及接口を掩爲和らかなる藁にて緩みのなきやう被置べし又太き砧木には二梢接三梢接と云あり此は一梢は はづれるも一梢は活と云接方にて上を掩に藁を用ひず竹の皮を竪掩に接口へ土を盛るものなり

六図

七図

●枝接

枝接には劈接のことにて松の如き軟かなる木は此の接方にするものなり此の法ハ砧木と梢と同様なる太さのものを圖の如くになし此の接方ハ極めて手輕きものにて如何にも手早に臺梢とも膠の吹出ぬうち接上ぐれば活ぬと云ふことなき手安き接方なり又麻緒にて巻き跡始末に至れハ何れも同様なるべし

●皮接(かはつき)
又ハ寄接(よせつぎ)のことにて手もなく圖の如くよするものなり接には添梢(そへほ)も臺木(だいき)も皮を少し削り麻緒(あさ)にて確(しか)と巻て結(むすぶ)ことなり時節ハ春より夏の末迄接とも差支なし又接て數日を經は梢を三分の一つ切置其後追〻(おひく)に切り放(はな)すべし一時に切ては枯(かる)ることあるが故なり尤も夏日は菰包を高き所へ上け置き日に焼

れて臺木の枯ることあるにより度〻水を粘包へ灌かくべし

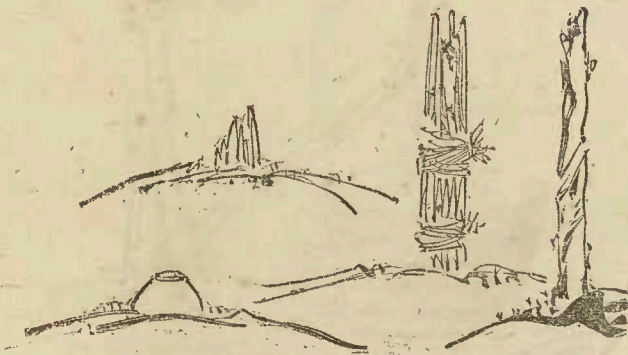
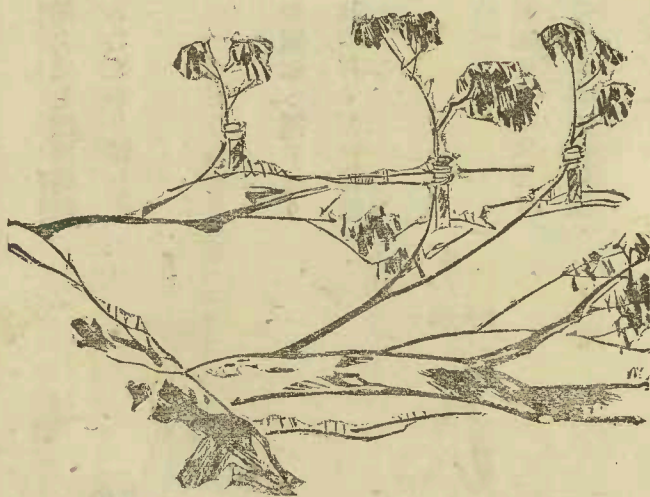
一圖に顯す如く薔薇は蕾を見て臺木に接かけるものにて花の開く頃迄に活ものなり接方は何れも皮接にて極活安きものなれども臺木の上皮及脂肪皮の薄きは活の惡しきもの故接かけるに臺木を撰べし左すれば決してはづれると云ふことなし圖に接たる上を掩ひあるは合羽紙にて成丈雨のかゝらぬやうに包置をよしとす

●身接（はらつぎ）

此は概（おゝむ）ね夏の接ものに用ゆる法にて太き臺なれば切口より三寸斗り細き臺あれば二三寸ぐらいも下げ砧木を削りて梢を當（あて）る接方なり梢を呼て臺（だい）に添ることと皮接に等し万両金（たちばな）千兩金天女花玉蘭の類此の接方をして第一とするものなり

●搭接

此は圖の如く臺木も梢も同じ太さのものを搭合せて接其上を割竹にて圖の如くになし弱と動かぬやうに巻き接めの上まで土を盛又接めに雨の掛るは悪きが故茶碗にて其上を掩ひ置てこなり牡丹の如きハ尤も此の接方に限ると云ふべし

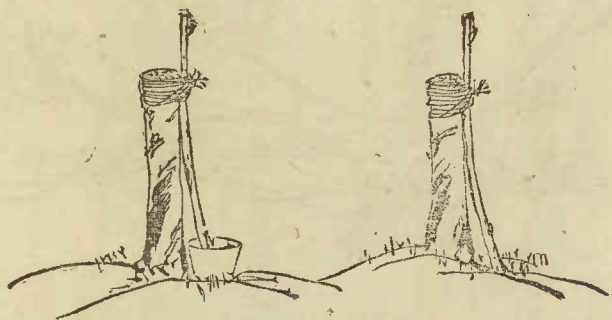
●壓接

圖に顯す如く梢にすべき親木を横に伏植となし其梢にせんとする枝の邊へ臺木を植込親木の枝を自由に引付て接の法なり臺木梢枝とも削麻緒にて確と結付るなど皮接に等し活て後梢を切離すなども同樣にて接べき時節ハ冬の外差支なし併し第一好時としては新芽の硬まりたる時なり

●揷接

此は圖の如く接べき梢を砧木の根本に揷其先を壓接同樣にするものなり殊に柿などは揷接よすることあり併し近時ハ少し

●水接

此は揷接に相似たるものにて梢を砧木の植本へ揷す代りに水を猪口の如きものに入梢の本を水につけるだけ揷接と異なるのみ

●共接

此は他の木を去て臺木とするものなき種類のものに限りて共接の法を用ゆるものなり栴檀蓮翹など何れも此の法によるの外なし

砧木仕立の事

砧木は何れも根分のものあり實生のものあり一として砧木とせざるはなし然れども勢分薄弱なれバ梢の勢何程强きも接ものよあらず故に砧木は來春接んとするには其年の春より夏迄に鉢へ仕込もあれバ秋の內に仕立るもありて此を知らず其際に鉢にとり砧木とせれ何木によらず必つげるものなし

一梅松櫻牡丹柘榴の類ハ前年の夏迄に鉢へ植込置べし又地植にするものにて菝包の砧木は其年に臺木として植込も差支なきものなり

一桃、林檎、梨、の類は前年の秋に鉢へ仕込置ば充分なり枳殼の臺木も又同じ

一薔薇臺の如きハ春夏秋ともに臺木に造るも差支なし又鉢仕込て二三ヶ月を經バ充分勢よくなるものなり

圖に顯すものは砧木を鉢へ仕込たるものにて木の質每に植込方の違ひあるもの故此を尤も心得置べきの第一なり無論砧木ハ何れも根を充分に切詰るもの故大木を砧木とするには二三ヶ年を經て接木をなし又梅などにて砧の古木を眺とするものは見込

を主(しゆ)として植るべし併古木ものは氣條(ずわい)を接砧とするにより成丈短く切て接べし薔薇(ばら)其他鉢へ植込皮接にするものは圖の如く一方へ寄て仕込まざれバ接に梢の當所なき場合ありて如何にも不都合なることあるものなり

梢に對する砧木の事

左に掲ぐる處の接木ハ何れも同木接にして接方の區別を逐一著したるものなり尤同木接とは松は松梅は梅の臺に接を云ふことなり

●松

松は同木の臺に接べし接方は辟接にて其順序法々は接方の部にあるにより爰に錄せず

●梅

梅は同木の臺に接べし接方は皮接なり然れども緣日もの丶𣏾梅抔には桃臺に接たるものあり桃臺は如何にも肉上の早きもの故仕入物に折節か丶る品を見ることあれども尤これは一二年の眺物には差支なし長くは持ぬものなり

●櫻

櫻は就中共木接のものにて他の木に接てはつかぬものなり一重ハ一重の臺八重は八重の臺に接ものにて尤櫻ハ萌芽の多きもの故此をうき取臺木に培養して接ものなり

併し八重は八重の臺なれバ花粧の變たるものに接も差支あしありたけ一重なれハ一重の皮膚相似たるものに接をよしとす尤皮接又ハ壓接にすべし

●牡丹

牡丹は同木接にて下品のものを臺とするものなり接方は搭接にして接方の部に倘詳細を見るべし

●木瓜

此は共木の臺にて皮接又は壓接にすべし時節ハ春の彼岸より秋の彼岸迄は接も差支なし併花の紅は紅の臺白は白の臺に接ものなり

●薔薇

薔薇ハ同木の下品又は野薔薇を臺として接ものあり臺ハ成丈膚皮の厚きものに接げばはづれることなし接にハ四季とも差支なし併し寒中は宜しからず尤皮接壓接よする人多し中にハ換接よするもあり

●柘榴

何れも同木接のものにて皮接又は壓接なり時節は梅雨の頃にすべし

●桃

何れも同木の下品を臺として皮接又は壓接にすべし併し花の白きハ白花の臺紅は紅花の臺をよしとす又實を採が爲に接ものハ毛桃の下品を臺として西王母の如きものを接べし花性のものに接は宜しからず

●李

何れも同木の下品を臺するものあり皮接又は壓接にすべし時節は花後又梅雨の頃をよしとす

●杏

惣じて右に同じ

●林檎

林檎は萠芽多きもの故[illegible]雨の頃に根分して臺木に培養し皮接にすべし接にも梅雨の頃を第一とするものなり

●木蓮

何れも同木の臺にて皮接なり併梢臺とも花色同じきものに限るものなり時節は梅雨の頃にすべし

●椿

椿は下品又は山生のものを採て臺木に仕立皮接にするものなり接時節は春の彼岸より梅雨迄秋ハ彼岸前後にすべし花は同色のものに限りて接をよしとす

●藤

臺木は山生のものを採て臺に仕立皮接にするものなり接時節は春の彼岸後秋は彼岸前後すべし

●金縷梅

金縷梅は低く作り盆栽とするには同木を臺に仕立春の彼岸後に接つけるべし

●百兩金

同木の下品を臺として身接にするものなり時節ハ四五月又九十の二ヶ月なり身接の

仕方圖の如し

●柿

柿は何質に限らず蒔返しは澁柿(しぶかき)となるものの故臺木に仕立上品の梢を換接とするものなり中には水接の如く梢を長く切て臺の根本に挿て接ことあり尚詳細は接木の部にて見るべし

●梨

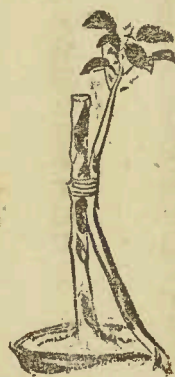
同木の下品なるものを臺として皮接にするなり時節は花後より梅雨中にすべし

●蓮翹(れんぎやう)

蓮翹ハ根本より多く蘖芽(ふきめ)の出るもの故根分して臺木に仕立彼岸後より梅雨中に接べし

●蔓蓮翹(つるれんぎやう)

惣(さう)じて蓮翹に同じ

●蠟梅

此も同じく根本より萠芽の多きもの故掻取て臺木となし蓮翹同様の時節に接かけるべし中には桃臺などに接ものあれど長持せず同木に限るものなり

木違接

木違接とハ木質類似にして他性のものを臺木となし接木するを云ふ

●佛手柑

枳殼を臺として梅雨の頃に接けバ必らずつゞぬと云ことなし

●橙

枳殼を臺として接こと佛手柑に同し

●香橙

橙に同じ併橙の種蒔にしたるを臺とすれは實の肌奇麗になるものなり

●密柑

密柑は香橙又ハ柚子を臺とすれば實の味美なり併し通常は枳殼を臺とする慠なり何

れも呼接皮接にするものにて時候は梅雨の頃にすべし

●柚子

枳殼を臺とす時候ハ何れも同一なり

●天女花

辛夷又は白木蓮を臺とゑて身接にすべし梅雨の頃より土用までは差支なし

●茶山花

山椿及雑椿の下品なるものを臺木として皮接又は身接壓接などよするものあり

●芙蓉

槿を臺木にゑて皮接にするものなり時候は梅雨の頃にすべし

摇木の事

諸木共よ摇木として活かざるは稀あり然れども木の質によりては時節を異にし摇方も又随つて違ふものなり摇には曇りたる日の朝早ければ何木によらず障なし餘り好天氣にても惡しゝ殊に南風の强き日又蒸熱き日既に雨落來らんとする時ハ摇べからず先第

一の好時とするは梅雨の頃風なし雨降らずといふ朝暈りたる内に揺せバ間違ひなきものなし併し木の質によりそれ〴〵の揺方あるもの故へ左ヽ掲げて木毎に其説明を詳細に誌るヽぬ

●檜の類

何れも梅雨か又は秋の中半に山土か眞土に揺べし梅雨の頃にハ新芽の堅まりたるを見て四五寸に切て揺せバ着ものなり

●槙の類

何れも揺べき時節ハ同様なれどもなりたけ短きがよし眞土に黄土を交て揺し其上を堅くをしつけ置べし

●瑞香花

梅雨の頃四五寸迄のものに切黒土と赤土を交たるものヽ揺バ着ものなり又切口へ同土を玉に付て埋込置もよし秋の末には根を充分下すもの故肥を澆くも差支なし

●素馨

梅雨の頃より秋の彼岸迄に四五寸斗りに斷り肥土に揷べし又眞土黒土の類に揷せば下肥の極薄きを度〻澆ぎてよし揷木畑は成丈乾よき所へ造るべし

●縁齒朶

縁齒朶は如何にも濕りを嫌ふもの故乾きよき場所へ揷木畑を赤土にて造り梅雨の頃に揷べし尤も土は極細に篩ひたるを用ゆることなり

●蓮翹

梅雨の頃三四寸に切縁齒朶同樣の揷畑にても又鉢にてもよし揷て二三ヶ月は肥をかけるは惡しゝ

●無花果

三四月頃に揷てよし揷畑にても又鉢にても渟池土の乾かしてよく篩ひたるものゝ肥土を交て揷せバ忽まちに根を下すものなり

●椿

惣じて椿又は茶山花の如き堅木の類は割揷とて三四寸程に切揷口を二ッゝ割赤土を

挿み其上を赤土に黄土を少し交よく煉りたるものにて玉になし山土又は赤土へさしてよし𣗄所は𣗄畑にても鉢にてもなりたけ日に當ぬやうにすべし又𣗄て五六ヶ月たてば聊根を下すによりそれ迄は肥をかけず水のみ絶ず澆ぎ濕けの多き所に置七八ヶ月斗りたち根の可なり下りてより少しづゝ日向へ出し薄肥を時折澆ぎてよし又太きものハ隨て長さ七八寸より尺迄に切て𣗄べし

● 薔薇

薔薇は四季とも𣗄て着ものなれども就中好時期は秋なり三四寸に切り鉢にても𣗄畑にても肥土に砂三分の一を交てよし如何にも根の下り安きものなれども濕り過て腐る患あるにより惣て中乾よしとす三ヶ月目ぐらひより油滓の薄く解たるものを時折澆ぐべし

● 芙蓉

枝を五六寸に切𣗄畑にても鉢にても溝の土を上げ日に乾しよく篩ひて肥土と砂を少し交て𣗄べし

●槿
擺方は芙蓉に同じ土ハ溝土のみにて充分のものなり
●柳
何種によらず春早く葉の出ぬうちに溝土と肥土にて濕り地へ低く擺畑迄擺べし
●小米花
枝を四五寸に切蔭土を肥土へ少し砂を交たるものに擺べし時節は春早く芽の出ぬうちをよしとす
●蜆花
小米花に同じ
●映山紅躑躅
躑躅のうちにても映山、青海、米躑躅などは何れも同樣にて赤土へ肥土を少し交て擺畑とおし春の彼岸前後に擺べし
●躑躅の雜種

香連、杜鵑、黒船、琉球、三葉、淀川、などの類何れも同様黒土と肥土を當分に交擺畑となし五六月のうちに擺べし

●小手毬

春芽の出ぬうち五六寸に切り黒土と肥土當分にて擺畑を造り擺べしあまり乾くハ宜しからず

●庭櫻

擺木にするにハあまり古枝ハ宜しからず去年の枝に古枝を四五分斗りつけて赤土と肥土を割りたるものへ春の彼岸前後に擺べし又垂櫻も同様にて日當りよき所へ擺し根を下すまでハ汲留の水を根に澆ぎて乾ぬやうになし根の下たる頃薄肥をすべし

●郁李

惣て庭櫻同様なれども擺時節ハ寒明にすべし

●梅

寒明頃に勢のよき極堅き氣條をさせばつくものなれどもあまり可もなたものなり

●藤

春早く芽の出ぬうち山土へ擢せばつくものなり

●竹

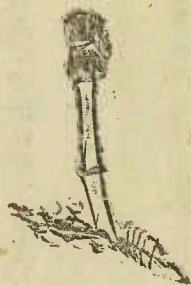
竹ハ目の重て柔軟なるものに限り根を下すものなり其種類佛面竹、八面竹、四方竹鳳尾竹、寒竹等のものにて何質にても活ものにあらず擢には圖の如く二タ節に切ものなれども只徒に二タ節とのみにてハ不可なり時節は梅雨の頃山土を細にして擢せバ必ず活ものなり

●南天

春の彼岸ゟ赤土へ茶滓を細末にしたるものを交二タ芽に切て玉擢にすべし根を下す迄ハ雨に當るはあしゝ

●金絲南天

土及其他同様なれども擢時ハ秋にすべし

●狗骨木

狗骨又は衞矛或ハ黄揚の類何れも棒挿とて枝葉ともに斷棄杭の如き三寸斗りのものを濕地の餘り日のあたらぬ所へ陰土と溝土をよく篩て交せ挿畑にすべし

●葡萄

挿蔓にハ先二年ぐらひの勢よきものに限るべし蔓を他より切て持來るにハ蘿蔔揷にするか又ハ切んとする所を麻緒まて强と巻て結び切口より成丈水の出ぬやう注意し挿畑に至り其上を切てさすものなり畑ハ肥土にてよし

●五加

此種のもの何れも活安き質まて何土まても日陰に畑を造り挿をけバ充分に根を下すものなり

●接骨木

此は三年くらひの枝を尺斗に切て五加同様に挿バ活ものなり時節ハ春葉の出ぬうちをよしとす

右の外擺木とするもの擧て數ふべからず去ながら以上掲ぐる處の種類を他に洩、諸木に比較する時は大いなる相違なかるべし併し注意とするハ常盤木の芽の固まりたる時擺べきことと草類は葉莖ともに克固りたる處を切て擺ば活ものなり草類は樹木と違ひ物によりてハ葉の莖を擺て根を下すものあり殊に菊などハ草中の擺ものにて此ハ菊培養の部にて見るべし又草花中の活やすきものは松葉牡丹、麒麟草草ヿ等しきものにてホクシャ此何れも活安きにより左のみ土をも擇ばず一本の無駄もなきものなり

種蒔の事

種蒔と云ば實たるを採て土中へ蒔の外なかるべしと思ハるれど缺して一やうのものにあらず實たるものを直蒔もあれバ天日に乾して紙袋に入れ仕舞置き蒔べき時節を待て蒔畑へ埋るもあり實の儘にて蒔もあれば割て核のみ埋るもあるものにて一〻此を區別すれば擧て數ふべからざるものなり然れども何れも大同小違にして春夏秋の類別と畑の造方を心得なハ大なる過はなかるべし

一何種を蒔にも第一に蒔代を充分に造ることぞ肝要なり此を拵へるには一坪にても二

坪にても蒔種の量に應じて地どりをなし四方へ杭を打て又は俵或は莚の如きものにて圍ひ其内の土を耕ゑ土龍の多き土地は四方へ板を入れ其上へ馬の寢藁又は古菰の根駄下の腐れたるを布其上へ砂の多量よ交りたる土を布其上へ肥土に藁灰を交たるものを布代に仕上げ其上へ種を蒔又其上へ極細かなる土に細かなる砂を少し交せ薄く散布をくべし餘り土を厚くかけるは時として種の腐ることあり

一採蒔とは實りたる種を直ぐ畑へ蒔ことなり此は實及核ともに潤ひ少なきもの則ち葵槿桐梧桐芙蓉の類にて青梧芙蓉は秋の末に蒔故霜除をなすべし

一年越蒔は松の類にて松毬より落たる種を砂に交をき來春の彼岸に蒔べし

一果物は肉をとりて蒔べし肉の儘は時として腐ることあり

一種の細なるものは土に交て蒔べし輕き質の種は雨掩してよし

一蓮燕子の如き水艸にても種は並の畑に蒔べし二三寸に延てより水中へ植るものなり

草木の害蟲を驅除する法

夫艸木の虫を驅除する法ハ草木育艸又は古書に就て著しある處のものを見れば樣〻の驅除法ありて根に烟艸の莖を入るがよしとあれば烟の粉を土に交るを第一の良法と云ふもあり硫黄と石灰を土に混交をよしと云ふもあり此等は隨分世に行ない來ることなれば驅除法として用るに足るべし併し土中の害虫より一層甚しきは芽を喰切葉枯し木を病とする種〻の害虫あり尤其類多ものなれども又驅除法も隨て備るものなれバ逐一此を區別して爰にしるしぬ

●芽切虫　通俗菊すひと云ふ

此は圖の如き虫にて何所ともなく飛來りて草木の新芽を喰切虫なり尤も見附次第とり除くは無論なれども何分飛行虫なれば何時か見ぬ間に害をなすこと多しこれを一つ所え集て獲り盡すには貴重なる植物より千渡離れたる所へ雜菊を多く植置ばあまたの芽切虫飛來りて菊の芽に採付喰切居もの故其所を採り殺せバ手もなきものなり又一說には菊の根より出る害蟲なりといふものあれども余未だ菊の根より出るを見た

ることあり若し菊の根より出るものとするも他に植ある菊の根より出るものとせバ矢張菊の芽に止るを見てとり盡すに如くはなし能く此を案ずるに菊の根より出るものなれバ古根より出る害蟲に相違なかるべし何も豫防するならば菊の古根は園中に置かざるをよしとす

根切虫

此は尤土中に生ずる虫にて艸或は芥の腐れたるより湧ものなり故に土は毎年植替前には必ず土を取り替るか又其儘にてもよく篩て芥及草の小根を取り捨又他の肥土にてもよく篩ひて汚物を去り石灰を聊か混交て植込めバ必らず根切虫の害に罹ることなし又彼岸後になれば土中に根切虫の極く小なるを見るものなり其際によく注意して取り除けバ左までのことはなかるべし若し一本の根を喰折たる時直ちに堀出せば其所に居るものなり虫形ち圖の如し

糸虫

此は多く鉢の植物に肥料の過度より根に生ずる害虫なり其形さなから短き糸の如く

此の害虫土中に湧たるやを見るには根本の土面何となく濕氣を含みて滑らかに見得色常に變りて悪敷艶を生ずるなり此れ糸虫の湧たるがためにて枝葉稍衰へ葉黄まず朽ずして落葉することあり尤薔薇に多しかゝる時は直ちに根の古土を振落し根につきたる糸虫を殘らず取捨更の土を入替て培養すべし

●木喰虫

此は害蟲中の甚しきものにて木の心を喰皮の上まで穴を穿ちて鋸屑の如きものを吹出すものなり最初は一ヶ所なるも其儘に捨置けバ次第に喰ひ廣げて數個の穴より吹いだし終に根に喰込て枯るゝものなり故に初穴一二ヶ所の内ち穴へ針金を入れ突殺し又突殺さんとするも奥に潜む時は何程突も甲斐なし其穴より「テレメン油」を入るべしテレメンは木を養ふものにて虫にとりては極毒油なり此迄の仕來りは穴より硫黄の粉又は樟腦を粉にして入れ或は鷄冠粉を入れ穴より燈油をさすなどしたるものなれども「テレメン油」に比しては一つも勝るものなし

●毛虫

毛虫は種類の多きものなれども何れも草木の枝葉を枯らすものなり毛虫は何の種類によらず前年の秋までに木の小枝へ卵を産つけたるものゝ春に至りて湧出ることなれバ卵より生せぬ内虫の卵と覺しき所を小刀の脊にてこすり落し「テレメン油」を筆にて塗置べし又湧出たるものにても其巣を取捨邊りへ「テレメン」油を塗置けバ決して再度其所へ生ずることなし此迄の仕來りハ何れも燈油を布ならひなれども「テレメン」に勝る良油なしと云ふ又毛虫の形及毛虫の新芽を喰そ有様は圖の如きものにて尤恐るべき害虫なり

●木蝨

此は木蝨とて空氣の流通悪しきがために湧だす害虫なり最初ハ新芽に起りて蔓延する時ハ葉の新古を嫌らはず表裡若枝小枝に至る迄取りまき終に其木をして枯死せし

むることあるものなり此を驅除するには種〻の法あり先第一は聊か付出たる時其ケ所へ心なし筆にて「テレメン油」を塗るにしかず此の古今の良法なり此迄の仕來りハ烟草の殻を水に浸して澆ぎたるものなり又一説にハ「カセソヲダ」を薄く解て澆くもよしと云ふことあり此は余未だ手を下して例したることなし此の圖ハ新芽に付たる木蝨を「テレメン」にて上より洗落す形ちなり其速なること用へて其妙を知るべし

●青虫

此は芋蠋の至つて小さきものなり通俗青蜆とて殊に薔薇の葉などに生づるものにて尤數多く湧ものにあらず故に見附次第取殺し喰殘しの葉も取捨又鉢植なれバ鉢の内

に虫の糞あるものなり此を早く取捨ずれ土腐りて終に木の衰弱を來す恐れあり

●裏虫

此れ如何にも小細かき虫にて橙柑類の葉裏に付ものあり是を通俗小虫と云ふ捨置時は次第に蔓延して葉を落し終には枝幹とも枯死するに至るものあり此迄の仕來りも白水にて洗又は大根の擂下したる汁にて洗ふもあり此何れも古法にして取に足らず必なし筆よて「テレメレ油」を塗に限るべし

●蘭蝨

蘭蝨とハ蘭の種類の葉裏に扁平少さき疣の如き虫の付ことあり古法には種〻のものにて洗ふといふことあれども蘭ハ如何にも葉の損安きもの故無闇に葉を洗ふは尤惡しヽ又「テレメン油」にても葉につきては宜しからず筆のさきにつけて其虫の上のみ塗をよしとす一方には柘榴の煎汁を筆につけて虫の上のみへ塗るも良法とあれども「テレメン」にしくものなし

●苔虫

木の種によりては白き莟形の虫多く付ことあり此は竹篦にて削落し其跡へテレメン油を塗り置四五日間もたちて白水を灌ぎ洗ふべし

●巣虫

此ハ多く盆中にある梅櫻などに付ものなり梅は夏の末より櫻海棠林檎の如きは秋の頃に至りて葉に蜘の糸の如きものをかけ次第に葉を巻巣となして内に入り葉を喰筋のみ殘し蔓延するに至りては宛がら枝葉一面の網を張りたる如くなり故に此虫は見附次第枝葉共に切取燒捨てざれば強き害虫にて冬季は土中に潛みて寒氣に堪春期になりて再び地上に顯れ大に草木を惱める害虫なり燒捨るより外に驅除方なし

●橘虫　山椒虫とも云ふ

此は其元山椒に生玄蝶と化して柚及柑類の新枝に卵を産着るより生する害虫なり尤柑類に限らず匂ひある木には必卵を產つけるにより尤注意すべし形ちハ圖の如きものにて色白きもの故如何にも見出安きものなり只取捨たる

まゝにては他草に付つ害をなすにより拾取て潰すべし

● 蚇蠖

此は雑草雑木の茂みに生ずる虫故盆栽などは成たけ木蔭に置ぬやうにすべし又木の間雑草の邊に置とも折〻注意すれバ差支なし見附次第取捨ざれバ新芽又は若葉を喰ふ害虫なり

● 蛅蟖

多く楓などに生ずる害虫よて葉を喰又手にても此虫に障時は毛先より毒を發して刺ものなり驅除力ハ雀甕とて圖の如きもの枝及木の股などに生じ其内より割りて出るもの故春のうちに小刀の先にても削取ば害虫に比して手安き驅除法なり

●螵蛸

此は圖の如く木の小枝股に生ずるものにて蟷螂の巣なり內部には數個の卵を含めるもの故見附次第小刀の先にても削りとるべし又差支なき枝は折棄るをよしとす

●蝸牛

此は毛虫に比しては其害少しとするも草木の葉を喰ふものなれば取捨るの外なし併し此の虫は木により一利一失のものにて柚橙柑などに黒粉の付たる時は木に多く蝸牛を匍匐すれば忽ちにして拭ひとるものなり又拭ひ取りて後は速に取除くべし

●蛞蝓

害は蝸牛に同じ柚柑類につけて功なし

●蚯蚓

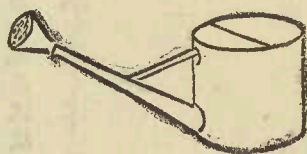
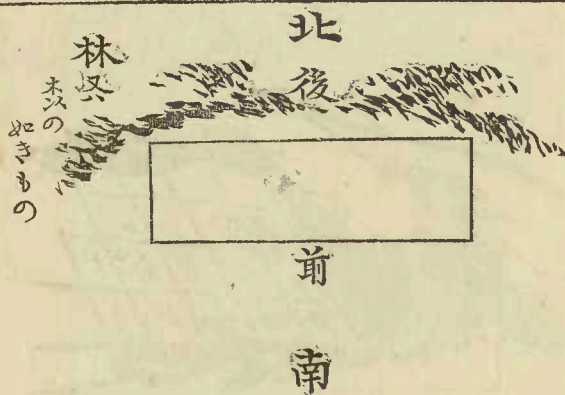
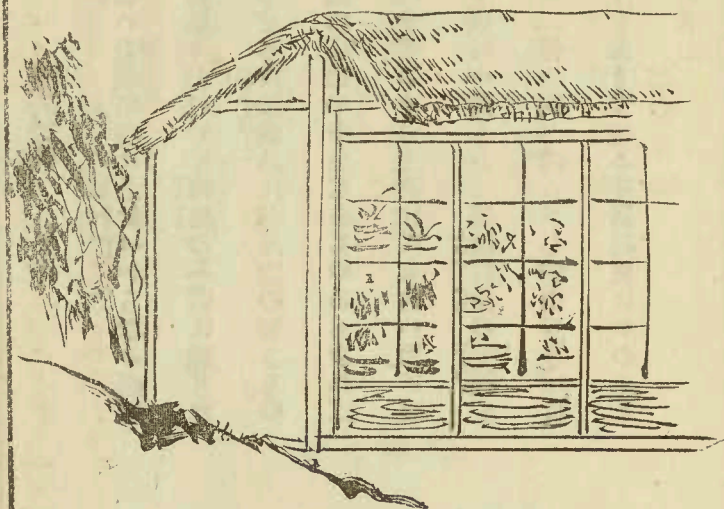
木の根を千渡隔ちたる所なれバ石灰を解其濃ものを澆ぎかけれバ忽ちにして死す木の根或ハ盆中へ上りたる蚯蚓には無患子の皮又ハ柘榴の皮を煎じ其汁を澆げハ直ちに死す併し跡は眞水にて克澆ぎ置べし其儘にては木に障害なるものなり

●蟻

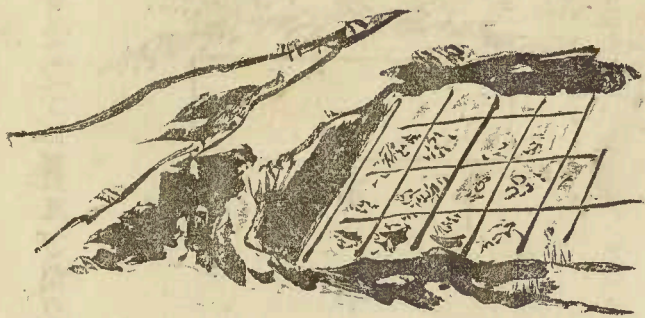
蟻の驅除法は種々様々あり盆栽なれば着たる蟻を羽箒にて箒き落し金盥に水を張り中に入置けバ容易なるものなり又此に叛して地上に植たる木に集る蟻ハ驅除に難し成丈深き鉢へ蜜を塗つけ圖の如き工合になして伏置バ忽ちにして鉢の中へ數万の蟻這入ものあり此の驅除の外さしたる良法なし

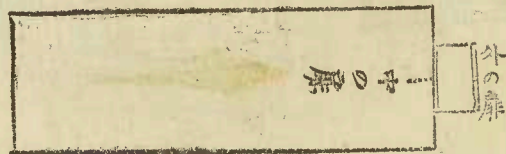
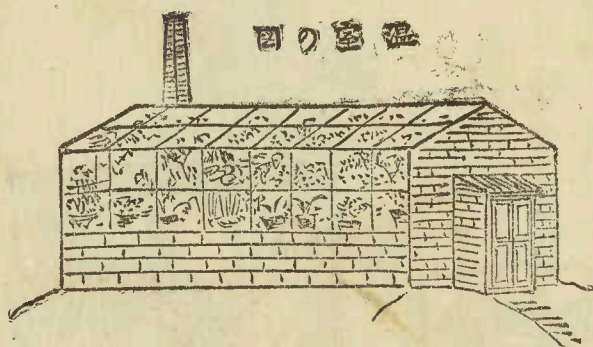
灌水の事

凡て艸木に對して灌水をするにハ第一性質と時候とを心得てせざれば多量に澆きて木の養ひとなるあれハ又害となるあり一滴も澆がずして差支なき時節あり先つ冬の期に至れば窖中へ入るにより聊盆中の土に潤ひあるまでにて養ひとなり若灌過となれば枯

るもの多し就中覇玉樹の如きは一滴の水にても澆ぐ時は却て腐る患ありテンシ牡丹通俗天竺牡丹の如きも又同し萬木諸艸とも春になりて日和の時日中に少時宛澆ぎ與ふべし三月頃より五六月迄は時候を追量を増して日中にのみ灌水をなし六月頃より秋の彼岸過迄は午後三時過より夕迄灌ぎ彼岸過てハ好天氣の時日中にのみ灌ぎ尤も時候を追て減少し冬に至れば前に述る如くに戻るべし其他盆栽ハ鉢の質により灌水の加減あり素焼のものなれば千渡多量になるも左のミ害とならず磁器なれば聊過量になるも水乾き惡きが故忽ち害となるものなり春の植込及植替ハ五月頃に至り新根を盛んに下して盆中の土を乾かしむれば多量に灌水するも障りなし却て養となれり併し霖雨の後盆裏に水溜りたるハ尤惡し細き棒の先又筆の軸の如きものにて水抜の穴迄二三箇所衝て水を吐すべし此は鉢の何焼によらず古き植込ものハ猶更のことなり中には雨後の晴上り杯には南風吹て盆中の土大に乾き過て見得ることあり此は表面のみ

乾きたるもの故必ずかゝる時は汚活に水を澆べからず常に盆中の乾きを見るには一ッ植木棚に並べある素焼鉢の乾を表準とすれば大なる間違なし惣えて水を灌くには圖の如き如雨露を用ゆべし

窖之図
北
後
林又ハ森の如きもの
前
南
窖を造る位置及方角の向

窖の事

○窖(むろ)ハ盆栽培養に最欠(もつともかく)べからざる必用物なり然れども構造(かうぞう)のみ窖に造りたるとも向及後ろ(むきおよびうしろ)に林及森の如きもの又ハ小山のやうなるものあらざれば功をなさず又土窖にても向ハ南に限り後は小高くして其趣向山(しゆかうやま)の半腹(はんぷく)と云ふ体の處へ造るべし併山なき所は土を盛りて造るも其功更にかわることなし

温室の事

圖の如く煉瓦にて造りガラスを張り寒風の室内へ襲入せぬやうガラスを羽目たる組子骨に至る迄シックイにて塗り留たる搆造にして日光の温氣又ハ室内の蒸發と共によく育ちて寒中と雖も四季の花を同時に咲かせる仕掛なり

温度器の事

此ハ南向の椽側へ出し寒中にても日光に晒し置けハ日の温度にて盆中の土より蒸發して自然に花を養ひ咲しむること温に異ならず日没に至れば室内に入れ暖かになし置べし尤寒にかゝりて必用のものにて暖氣になりてはあまり用のなきものなり

盆栽雅賞の事

此の部に著はす盆栽は何れも雅味風致を賞し文房の具と共に陳列するものを擧ぐ順序は四季又は等級を撰ばす只了解安きやうに示せるものなり

●松

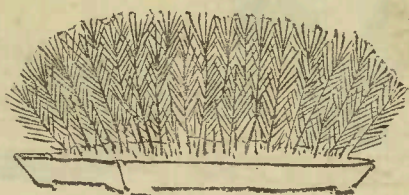
圖に顯したるは盆中に栽て風致を賞する處のものにて尋常の松を培養するとは大に異なるところあり何となれば松を培養するには様々あるものにて芽生を植て庭木の松とするもあれば地に植るも枝を曲て仕立るもあり盆中

にても俗愛のものには殊更枝を曲葉をすかし又根を上て作るもあり銀青のもの抔に到りては葉の艶好を眺めとなすもあるものにて其區別なく松の培養は一班と心得て雅賞する處の松を養へは忽にして枝太り葉延て更に見る處なき松とはなりぬ一体盆中に栽へ風韻を樂しむ松抔は其元芽生より培養したるものにあらず深山幽谷に育ちて幾年の雪霜を淩暴風に枝をしごられ樣〻の辛酸をなめて生長したるものなれバ盆中に栽枝葉を延バさず去とて又枯葉を生ぜず天然の姿を失なはざるやうに養ふこと肝要なり赤松なれば山土のみにてもよし黒松は山土ゝ眞土を交るか一層眞土に栽る方をよしとす肥料は仕立松とちがひ人糞にて拵へたる肥土などは必ず用ゆべからず油滓を解腐せ數月を經て臭氣の失たるものに水を割り極薄くしたるものを聊かづゝ土の乾きたる時潤をはせ與ふべし惣して松は濕りを嫌ふもの故肥水は勿論眞水にてもあまり掛過ぬやう注意すべし松は一ケ月中十日室内に陳列すれバ二十日は蘆簾にて掩ひたる植木棚又は檐下にても出置べし殊に梅雨中の雨は嫌ふもの故蘆簾屋根の上に桐油紙を懸一滴の雨も當らぬやうになし棚は如何にも風流通しよきやうにあし

置べし植替は秋の中半にすべし左なくバ春の彼岸過にするも差支なし素人手にては
なりたけ根の土を振ハぬやうに植替べし

●千本松

千本松は芽蒔のものにて圖の如き鉢に肥
土を入れ其に松子を蒔芽立て三年ぐらい
のものを眺めとするなり又肥土にて畑を
拵らへ蒔たるものを根離れせぬやう盆中
へ採上るもよし千本松は數年の眺めとな
るものにあらず先五ヶ年迄の見物にして
培養方は何れも同一やうなれども是は芽

蒔の仕立松故肥料の澆方大いに異なるところあり最初種立の年より二年目の秋迄肥
料を充分に澆ぎ三年目の緑りたつ頃には更に肥けを與へず緑延立たる後も聊の肥料
を與ふべし肥過れば漫に葉延て如何にも醜きものなり千本松ハ中古より雅人の好處

なれども盆中にて幹の揃ひ盆の似合釣合此最六ヶ敷ことにて風韻なき聲れ味難盆栽なり故に鉢及幹の位置等に至る迄圖を見て其何たるを了知得べし

●赤仙毛松

赤仙毛は束松よして極淺き長角などに栽れば風致自ら備て千本松に勝るものあり黑仙毛は野鄙にして俗なるが故に盆中の眺めとならぬものなり植るれ山土を用ゆ肥料其他の培養は右に同し

●銀杏松

此れ最俗に近ものなれども天然の姿を保つものれ多少の雅味ありて眺となるものなり木は極低鉢淺きを好む栽るには山土又れ眞土にてもよし肥料其他の培養は上に同じ併肥料は少量のはうをよしとす

●杜松

杜松は稍俗に近し最も天然の姿あるものを愛す著しき人工を用ひたるものは眺とならず圖の如き風粧に止るのみ其名松と雖も杉に近し併し土及其他培養とも上に同じ

●石化杉

圖に顯す如く純然たる杉の種類なり最も天然の姿を愛す故に人工用ひて造りたるも其趣を主とすべし鉢は淺き長角をよしとす土及其他培養とも右に同じ

●梧桐

圖に顯れせるは切込ものにして幹太く根少さく鉢も又隨がつて少さく且淺きを賞美するものなり此切込植をするには一朝一夕に出來得るものにあらず早くも三年充分にして植込は五年なり何となれば一時に根を切採バ枯るのをそれあるが故に先最初の時充分に太き根を切棄中分の鉢に植込翌年の秋半になりて聊づゝ邪广になる根を切棄又一かれ少さき鉢に移し其翌春になりて千渡小根を下したる處へ油滓の薄肥を施こし此年の秋に至て陳列をせんとする見込の鉢に移し其翌春則五年目に初て人ゝの目を驚ろかせる盆栽となるものなり中ゝ六ヶ敷ものなれども至極樂みあるものにて植込には眞土か又ハ蔭土を少し交ゐるも宜し肥料は根切採りたる後三ヶ月程は惡し丶併し水同様の極薄きものは差支な

し

●千本梧桐

千本梧桐は芽蒔のものにて圖に顯す如き体裁のものなり其儘陳列せんとする鉢へ位置よく秋實の落たる時直蒔折節水を澆ぎ窖に入れ置けば來春芽を生ものなり其翌春芽を生ずる時長さは程よきに留め丈揃の具合をなして陳列に供する時ハ一入興あるものなり土及肥料とも梧桐は何れも同一のものとしるべし去ながらあまり肥過れバ葉肥太して見苦しきものなり注意せよ

●佛手柑

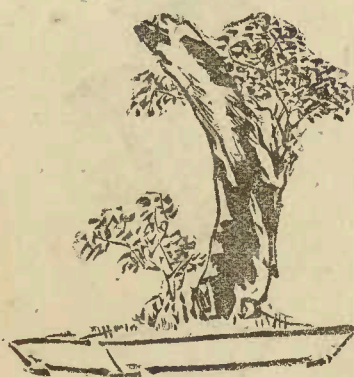
圖の如き指實を賞す圓實は愛するに止まり木は餘り大なるを好まず木は少にして實の大なるを賞す鉢は圖の如きもののみ限る最鉢形を撰べし植るには赤土に肥土を割りて用ゆ肥料は獸肉又は獸骨灰などは至極よし下肥油滓類も良肥なり佛手柑は實の結び難きもの故花の頃より實の豆粒位迄は充分に注意し成丈風當よき所に置半日斗り日にあて雨に濡さず根に水を多く澆がず又乾過るは惡し尤雨の時は椽側にても入置べし稍實の中分になりては雨にあてるも差閊なし雨にあてる頃になりては豆を潰し水にひたし腐ら

せたる汁を根に灌ぐべし

●柘榴

圖の如き極く古幹を好む若木ハ愛して賞せず古幹なりとも一体に太さを嫌ふ古幹にて細きは一層可なりと云ふべし又實生のものは充分丹精せずハ容易に實を結ぶものにあらず接樹は其年より花つき實も結ぶものなれどもよくゝ枝の振を撰み古幹の体をなしたるものを接べし臺木は春の彼岸頃に鉢植になし皮接又は呼接にするものなり植るには肥土にてよし肥料ハ下肥の薄きものか又は油滓の水に解よく腐らせたるもよしあまり根を濡し過るはよろしからず

●黑檀

圖の如き木つき枝ぶりのものハ如何にも稀なるものなり兎角生長の遅きものにて大木を切詰盆中へ栽るハ難きものなれども去とて芽生ハ若幹にて雅致なし故に黄楊の工合よき幹を臺木として壓接にするものなり根ハ年〻切込て鉢馴をさせること何れも同一にして植るには眞土か又ハ肥土にてもよし併し眞土は乾の早きもの故一層眞土と肥土を當分に交て植る方を至極よしとす鉢底は如何にも水貫よきやう栽込べし肥料は尿べんにても油滓にても月一度ぐらい灌ぎてよし

●黄楊(つげ)

圖の如きもの稀(まれ)に盆中へ採(とり)て眺(ながむ)ることあり賞美するは古幹にて中半(なかば)朽大木(くちたいぼく)まて根(ね)の極小(ごくしよう)なるを第一とす栽込土肥料に至るまで黒檀同様(こくたんどうやう)に心得(こゝろえ)てよし黄楊(つげ)ハ黒檀の鉢と違(ちが)ひ圖の如き形を用ゆ

●辛夷(こぶし)

圖の如き低(ひく)く造(つく)りたるものを賞美するものなり鉢も極淺(ごくあさ)きを好(このむ)が故細(ほそ)き根ハ横にこなし太(ふと)きは切去鉢に馴染(なじみ)よくし植るには肥土にてもよしあまり乾(かわ)かすれ宜(よろ)しからず

●白木蓮

圖の如きものなれば雅賞して盆中に採て眺るも可なり尤木のつきよもよると雖餘り高きは好まず低く造り古木大輪を愛す根少にして淺き鉢に栽ること其他土肥料に至る迄辛夷に變ことなし植替ともに同様なり接木は四五月の頃にすべし

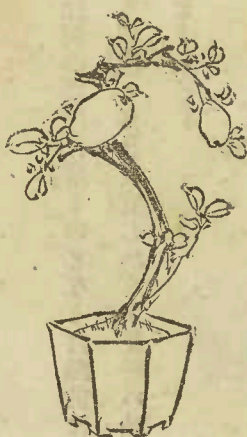
●天女花

天女花は最雅賞すべき盆栽なり木振鉢の工合圖の如く心得べし白木蓮又は辛夷を臺として接ものなり臺木の木蓮は白に限るべし紅色の移りを患るが故なり植るにも赤土眞土當分にてよし肥料は魚の洗汁魚腸等をよく腐らせたるを秋の初より冬の初までに四五度も灌くべし餘り濃はよろしからず

●木瓜

白木瓜を最も雅賞す盆中の栽込趣向は圖の如きものをよしとす植るには肥土に眞土三分の一をよく交合て用ふべし接木をするには同種のものを臺として上質のものを接べし臺木は舊の二三月頃充分根を切すて鉢に上げ翌年の春接をよしとす肥料ハ下肥の極薄きを寒中に根の廻りへ灌ぎ置けば來年花多く着ものなり

●榲桲（クワリン）とも云ふ

圖に顯す如き木振を雅賞す最文器陳列の場所などにハ至極よろしきものなり何れも根の少なるを好み鉢の淺きものを愛す故に年ゝに根を切つめて少さき鉢に移すべし接には同種のものを臺としよき枝を梢とするなり尤古幹の様を賞す植るに蔭土に三和土

を交て用ふ肥料は油滓をよしとす

●茉莉花

茉莉は左程のものにはあらざれども中古文器陳列の場所に附ものとなり自然世に賞美されたるものなり植るに眞土を用ふべし餘り根濕り多きは宜しからず肥料ハ油滓の解たるものを灌ぎてよし栽替ハ舊の四月頃をよしとす

●薔薇

薔薇は花質によりて雅賞するものあれば又俗愛となるものあり爰に其種類及び木つき花粧葉形を圖し雅賞すべきものゝみを記しをきぬ

一泰山白　最雅賞すべき第一の花王なり白色鮮にして薔薇中他に其類を見ず且大輪のものにて上品なる匂あり花莖強く空に向つて咲けり栽るゝは肥土に白質の砂を三分の一交て用ゆ肥料ハ油滓の水に解よく腐れた

るを薄くなし盆中の土乾くを度として灌く
べし餘り肥過るハ却害あり注意の至りなり
薔薇盆中の栽培は何れも同一と心得てよし

一白黄　花ハ黄白にして極艶麗のものなり幹
細けれバ花莖も又隨がつて弱し尤泰山白に
比して劣と雖盆中賞すべき花なり匂は泰山
白に劣らず花粧葉形とも圖を見て知るべし
又樹振も圖の如く低く造るをよしとす高く
造れバ花首弱き故却て見苦きことあり

一世界の圖　花は万重にして滿開となれば恰も鞠の如し　葩細にして堅し花莖強く薄桃色の花なり花形圖の如く尤賞翫すべき花なれども幹太くして風致に乏し且葉に艶なきは如何と云べし

一美香登　幹及花莖細く然れども白黄に比して大いに強し花黄樺にて千重咲なり匂も至極上品なれば又花幹ともに風韻あり此等をして最賞翫すべき薔薇の一に加ふ可なり

一白玉　圖に顯す如く花球咲にて幹太から
ず花首つよく受咲の純白あり葉の艶充分
貯へて堅し併大輪にれ咲難ものなれども
此等をして賞翫すべき薔薇と云べし

一天國香　圖に顯そ如く花莖細くして强し
幹太からず受咲の薄桃色にて花瓣の底に
紅色の移りありて美麗の花なり匂も上品
にして樹振りも聊の風韻を保てり先賞翫
すべき薔薇中に數ふ可き花と云べし

一黄ノ司　圖に顕す如く大輪にして千重の純黄色なり匂も又絶て上品なれども花莖細きがために弱し殊に幹延過る憂あるこの故に注意せざれバ盆中の風韻を損ふものなり併し培養行届て盆中に大輪を咲しめなば其一入なること他種の類にあらず

一虎ノ洞　一猩々舞　一豊ノ明　一天鵞絨

此の四種の如きは極て最上の花なれども幹格太くして更に風韻なければ雅賞するに足ず花を愛せバ花中の花なり故ニ俗愛の部に至りて尚詳細を見るべし

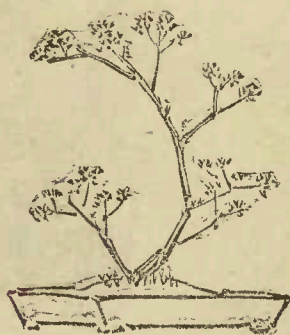
●沙羅双樹　通稱夏椿といふ

此の種は敢て眺となるものにあらざれども中古雅として賞美するものあり餘り高く造りては盆栽にあしゝ低きほどをよしとす植るにて肥土を用ゆ植替ハ春秋の彼岸にすべし肥料は下肥を薄くしたるものを灌ぐ加又油滓の解たるものハ盆中に栽たるも

のに扱よく肥のきゝめもかれることなし

●山茱萸

圖ょ顯す如く骨幹更に風情あるにあらず花黃色の細なるもの咲滿る時は只何となく枝花の間に風韻を保てるが故に雅人此を愛るものなり植るに肥土を用ゆ肥料は油滓にてよし植替は秋の中半にすべし

●蘇鐵

蘇鐵は雅にして雅にあらず俗にして俗にあらず其愛する人により雅とすれバ雅なり然れども(甲)圖の如くなるものを盆中に上げて賞翫するものなり(乙)圖の如きものは俗に緣日蘇鐵とて眺めとなるものにあらず植るには赤土が至極適するものなり肥料は油滓の極薄きものを灌ぎ又鐵氣を好むもの故針の折或は鐵の細ものを根に聊づゝ入置は如何にも宜敷ものにて植替は寒中の外時節を嫌はぬものなり

鉢へ栽るにはなりたけ水稼のよきやう注意すべし

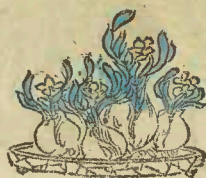
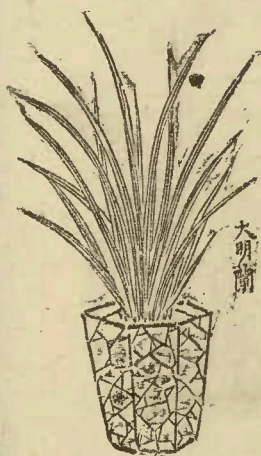
●芭蕉(はせう)

圖に顯す如きものを最も雅賞す此は盆中に上げたる位置(いち)のみにて眺めとなるものなり植るには三和土(あはせづち)と蔭土(かげつち)を當分に混交(まぜ)て用ゆ盆中のものへは肥料として白水を時折(をりをり)灌ぐべし肥過てはあしゝ

●水仙(すいせん)

雅を賞翫するは洗根(あらいね)に限るものなり水仙ハ一体強きもの故暑中にハ土中より根(ね)の玉(たま)を堀出(ほりだ)しよく日干(ひぼし)となえたるを下肥の中に十日斗(ばか)り浸(ひた)し置取出(とりだし)て又日に晒すこと四五度にして後肥土の床(とこ)を造(つく)り埋(うめ)置水ハ九月頃迄澆ぐべからず早く水を灌げば葉も又早く延て洗根にならず花のみを眺とする培養法は庭植物の部にて見るべし鉢

にて花を着くるはいと稀なるものなり

●蘭

蘭は最種類の多きものなれども風韻を樂むもの纔二三ゞ止るのみ故に圖に顯すものを雅賞するものと心得べし植るには赤土又は野土を聊混交して用ゆれば適當のものなり尤蘭は鉢の水抜よくするため鉢底へは黄土の粗く砕きたるものへ炭を粗く砕きて極細末なるを篩ひとり小豆粒位のものを土三分炭粉七分の割合に敷て栽込ば一は水抜をよくし一は炭の蘭を養ところとなるものなり肥料は油滓を水に解よく腐れて薄きものを時折澆くべし極薄きものなれば水代りに灌

ぐもよし置場所は地より三尺斗り高き風貫けのよき所へ植木棚を造り天へは蘆簾をかけて日光又雨共に直に當ぬやう仕置べし寒中ハ窖に入れ置寒中にても温暖なる日和の時日光に當るハ至極よし又葉よ塵などのかゝりたるも指さきにてふきとるべからず指の脂肪を嫌ふが故鳥の羽又ハ水筆の如きものにて拂ひ落すへし

●高麗蓮

圖の如き体裁のものを賞翫す花及葉莖とも短かく少なるを上品とするものなり鉢ハなりたけ淺きを好む栽るには田土を用ゆ肥料は鰮肥を用ひて極適當のものなり肥を灌時節ハ葉を生じて花のあがる迄とし[る]へし

●西湖の葦

此は圖の如きものにて中古文人家の愛するものなり栽るハ田土にて肥料は鰯の洗汁の如きものを聊灌べし肥ては眺にならぬものなり

●石菖
雅致風韻を樂むものには斑葉又兩根を好まず如何となれバ斑入抔は粧過て趣を失ふと云べきか將兩根長葉の如きものハ俗に近し文人家の愛するハ圖の如きものにて片根なれども有栖川又ハ針谷なり此尤平鉢の極淺きものへ平栽或ハ畝植等にするものなり栽るにハ砂を用ゆ肥料は西湖の葦に比して今少し減少とするべし又澆がざるも差支なし

平植
針谷

畝植
有栖川

●竹
竹は最も雅致あるものなれども先づ天然の風韻あるものにあらざれバ愛せず佛面竹の如きハあまり好まず人面竹又は苦竹淡竹の類に眺となるものあり時としては寒山竹に極宜しきものを出すことあり其他に竹の類は鄙にして俗なり眺るに足らず

●通草

飾り多くハ眺とせざるも工合よきものハ俗を離れて一入見所あり尤も盆中へ枯木を指込からませて造るべし栽るには山土を用ゆ肥料は時折油滓を根に入てよし

●野木爪

何れも同様のものに花葉に違ひあること圖の如し通草は藤紫の花にて野木瓜ハ白花なり此の蔓は庭植のものにて家腰に植て檐に懸又は蔓堂を庭中に造るなどすることあり

野木瓜

通草

盆栽俗愛之部

凡て此部に顯はせるハ盆中に植るもの鄙近の如何を問ず只艶麗なるを樂の盆栽なる故此の部中を見ること宛も縁日の植木屋の如し盆裡の等級も撰ばざれば四季の順も逐ハず只培養の心得となるのみを爰に示せり

◎松

黒松よても赤松にても其種類を問はず圖に顯すもの何れも仕立ものなり此元來趣を殊にするものにて眺と葉艶よき處をのみ愛するの盆栽なれば天然のものに比しては一層培養を注意し始終蘆簾掛の棚又は檐下に置直に雨の當らぬやうになすべし土は赤松黒松とも前部に著し置たるものと同樣なり肥料は仕立松のこと故油滓の水に解たるも

のを充分根に灌べし又人糞にて拵へたる肥料も悪きにはあらず注意せざれば肥過て
枯葉の出來る恐あるものなり尤も松は濕りを嫌ふことを忘るゝなかれ

●五葉

五葉の類は殊に葉の傷み安きものにて長く室内に置時ハ忽にして古葉よ枯を生じ見苦しくなるものなり故に殊更五葉などハ眺る際にのみ室内へ入るべし土ハ黒松の割合にて差支なし肥料其他培養法ハ尋常の松に異ることなし

●垂松

垂松ハ如何にも枝の長く垂るを好品とするものにて鉢は樹の体によりて甲乙貳圖の体裁に栽込べし土及其他の培養ハ尋

常の赤松に異ることなし

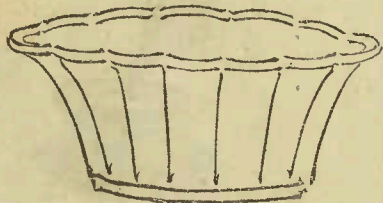
●圓栢

盆中に栽枝葉ともゝ伸ざるやう注意すべし此は若芽の吹く頃は決して肥を與へず聊か盆中に濕あるのみになし置べし土其他の培養は尋常の松に同し

●矮檜

矮檜の如き純然たる庭木なれども鉢栽として眺るもの多し其他槇杉の類何れも盆中に上けること世の常なれども敢て愛する程のものにあらず左れバ他に盆中へ上げて愛翫するものゝ類數ふべからざるにより逐一爰に錄せず然れども強て盆中へ植んとせバ土及肥料に至る迄大なる異りなし尚庭木の部にて檜槇杉の培養法の詳細を見るべし

●樫

此の種類は山の岩間などに多く生ずるものにて野生のものを盆裏に栽て馴染ましむ

るには十本を採り來りて漸く一二本着くものなり植料は赤土にてよし肥料は魚の洗汁を灌ぐか又油滓の溶解したるものを時折澆ぐべし

●黑仙毛

圖の如きものにて俗愛として見には至極面白ものなり併し餘り葉を延すはあしゝ植料は眞土に赤土を少し交せてよし肥料は魚の洗汁の又は白水を灌ぐべし

●猿猴杉

圖の如きものにてあまり可もなきものなれども一風異たるだけ面白きものなり赤土に植てよし肥料も一般の松柏類に同じ

●比翼檜葉

此は圖の如きもの故俗愛して眺めとすれば至極面白みあり併し培養過て新芽を延しては更に風体を害ふもの故植料は黑土にして更に肥料を用ひず雨露の爲に養なはれるのみと心得てをくものなり

尤上に記しある猿猴檜葉の類なれども圓栢同様よ培養せざればバ次第に延て盆栽もの丶意味を失ない終に眺ものにならざる故注意の出來る丈盡すべし又あまり肥氣

なくなりて枯れんとする時ハ魚の洗汁を與ふるをよしとす

●山茶花

此の種類のものはもとより俗人の眺むるものなれどもあまり枝をためること難きものにて只木を充分のばさぬやう注意するの外なし赤土に砂を交て植肥料は油滓を灌くべし古へは此花大に流行して百餘種の多きを貯ふるものもありしか近ころは甚衰ひ別に珍重するものなし只侘介朴半の如きは稍〻見るに足るものなり

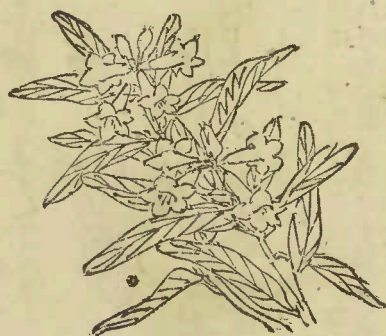
●茶山花

此ハ山茶とちがひてあまり花種の多きものにあらず故に盆裡にあげて人の愛も少なし然れども木つき面白く造れバ山茶より幾分の風致を含めり培養は山茶に同じ

●石楠

此の種類も寒地のもの故暖地には適せぬものなれども赤土に砂を交肥料は馬糞又は油滓を與へてありたけ風の流通よき所に置けば花咲ものあり併し山にて花を持たるものならでも培養の爲に花を持たせること難きものなり

●百兩金

此は盆裡にあげて水の拔けをよくせざれば枯を生ずるの又幹に油虫或は小虫の湧ものなり尤暖地に生ずるもの故寒中注意をなし窖の中に入置こと又肝要なり併しあまりむれ過れば葉ふるうことあるにより時折風を當るもよし尤夏日は雨にあてるをよしとすれども直は惡しゝ又日光に

も直に晒さぼして葭簾でしを好むものなり夜中は露に逢せるをよしとすれども大雨は悪し、故に中ゝ六つヶ敷ものなれども培養の順序を記臆すれば却て心安きものなり植料は赤土を用ゆべし肥料は油滓を溶解させて白水を入れ悉く腐敗したるものを薄くなし置て土の乾くを見て灌ぐべし

●石菖木

圖の如く葉の枯たるやうに見ゆるものにて至極面白きものなり土は黒赤を割りて用ゆ肥料は白水又は魚の洗汁を澆ぐべし

●梅

凡て梅の種類は隨分多きものなれども其培養法に至りては盆裡の都合何れも大同小異のものにてさきに顯しあるも更に異ることなし然れども籓梅の如きは殊に新芽の梢に花を澤山持せるも

籓梅の切込たる毎に圖の如くなれどもそれを厭はず切込て新梢に莟をつけるものあり

の故花咲て後充分根を切棄ると共に古枝を切込ものにて梅雨前迄に新の小根を下したる處へ割肥を少えづゝ灌きて充分に養ふものなれバ素人の手にてハ翌年花を持せること難しと云へりされども此の法の如くなせバ多少花の着くものなれば試むべし又枝垂梅にても此の法にて培養すれば差したる差はなきものなり併し櫻梅の培養よ比すれバ枝垂れ培養仕安きものなり

●櫻

最も櫻は我日の本の名花なれども雅賞として眺むるには聊か乏しきところありて俗愛に近きものなり如何となれバあまり花の優美なると枝幹の佶倔なるとによることあれば敢て鄙近と云ふにもあらず一種獨特の賞花と云はざるべからず最も櫻花中人〻好みて賞するものは鷲の尾、大燈灯、欝金、虎の尾、楊貴妃、鹽竈、淺黄糯子、西行、其他の名花百餘種に及べるものなれども一〻こゝに擧るに暇あらず又培養法及接方等に到りては前に悉く記しあるよりこゝに其詳細を記るさず

●薔薇

最も種類の多きものにて前に雅賞の部中へ花中の王たるもの及風致あるものハ顯したることにて譬ひ如何なる美麗の花と雖も風致に乏しき花質は俗愛とするの外なし殊に薔薇の上品下品は素人の看別し難きを知り植木屋此を機として一期咲のものをは四季咲と僞り「日傘」「蟹牡丹」の如きものを縁日などに持出し高價に賣付るもの多し此の種類の如きもの花中の下品にして花の善惡をしらざる者の外眺るに足らざるものなり

●天鵞絨

此の品の如きハ最上等品なれども花の奇麗過る處と又葩に小毛を生じて天鵞絨の如きが爲雅を失ひ終に俗愛となるに至れるものなり盆及砂又は栽込方に於ても雅賞の部に記しあるものと同一なり

天鵞絨は幹の針多くして短かし

豈の明は幹の針疎にして太く短かし

猩々舞は幹の針細くして多し

一豊の明　一猩々舞　一黑の司

此等の品何れも上品なれども天鵞絨に等しく風致に乏しきもの故自然其賞すると愛するとの差あるものと考るべし

一酔楊妃の如きは尤上品よもあらず只花着の多き處と芳香の多量に含めるとを花の大輪あると其上へ四季咲とを賞賛するに止まるものとしるべし其他上品より下品まで品多きことあげて算ふべからず尤下品にも四季咲ありまた二季咲のものもあれども概して一季咲のもの多きものなるにより自然四季咲の品を愛するもの多し惣じて植料ハ赤土へ肥土を交それに砂氣のなき土なれば聊寄砂を交せて植付れハ至極着のよきものなり

一濱荻　一金の麾　一銀の麾　一白の大鳥毛　一黑の大鳥毛

又下品に到りてハ浪花鏡、岩鏡などの類何れも蔓の如くに延るもの故充分注意して切詰ざれバ盆中の眺に乏しきことあり故になりたけ幹の延ぬやうに造るべし併し浪花鏡、岩鏡の類は年ニ度咲なれども花の澤山着もの故一層眺となるところあり

一櫻鏡の如きは花粧いかにも愛らしきものにて中等品なれども眺となりて奇麗の花なり去ながら花莖細きが爲花下向か故なりたけ莖太短かくなるやうに造るべし

一連城の玉　一龍宮城　一花勝見　一雪燈籠　一星明　一朝日の浪　一不老門

一羅龍王　一還城樂　一沖のかゞり

一月の涙　此の種類の内上中下の品あれども何れも花莖强き類にて盆中に栽て大きに眺めとなる花なり其他薔薇ハ種類多きものなるにより一〻擧るにいとまあらず又薔薇は上中下品となく培養に至りて何れも更ることとなし

盆栽に雅賞と俗愛とハ其區別如何にも六つヶ敷ものにて木質をのみ論じて雅賞するにもあらず又俗愛するものにもあらず雅賞すべきものと雖も仕立方によりて俗愛品となるもある故俗愛すべきものも自然脱俗して雅賞品となることあり先此の道理を知る時は盆裡の味ひ一入なるものとしるべし又爰に一つの心得あり草木ハ何程風致を含みて生育えたるものと雖も其木其艸たるものに適する盆あり之れに適すれば又一種の風致を出し自然人の賞翫するゝ至るものなり

●鉢の事

一先にも鉢の其木の質によりて合と合ハざるとあるは述べあることなれども惣じて育鉢ハ土燒の如何にも燒締りあしき柔かなるものに限ることあり何となれば鉢の燒堅ければ中の土にのみ養なはれて鉢と小根と更に別のものになり自然鉢と根との間に水氣廻りて少しも養なはれる所なし終に小根の水腐りとなるに到るものなり土燒の柔らかにして鉢の全体に水分を含めるものは自然に土同様に小根を養ふ姿なるによリ生長するものなり故に植物ハ雅俗とも皆此の理にして生長したる後ち室内又は椽先或は植木棚に陳べて眺むる時石燒の盆に移して木の衰へぬやう培養するものなり此れ空說にあらざれば若し疑ふ人〻あらば實地に試るべし併し培養の六つか敷と云ふ菊又ハ万年青は却て石燒の盆に栽て育ち一と口に育て安きと云薔薇は石燒に育ち難きものなればよく〳〵培養の如何なるもの又どのやうなる法方にて育つものと云ことを此の書につきて知得すれば必ず育たざるものなしと知るへし

●花壇物の部

本部に著はすところの花もの何も大畧四季順に倣ひ擧るものにて花の等級によらざるものなれば其心して見たまへかし

●櫻艸

圖に顯す如くいかにも愛らしきもの故鉢に植ながむるも至極宜敷ものなれども其性質は花壇ものにて鉢植として見るものにあらず上品銀緣白黄下品は紅色桃色あり

土ハ黒ぼく三升に渟の土を日に晒したるもの當分能篩ひにかけたるもの鳥の糞三合左なくば馬糞にてもよし何れもよくかき交て植るべし植替根分などは花の後にすべし肥ハ餘り過ざるがよし

●保童花

圖に顯す如く順を逐て咲登るにより緣日の植木屋抔は只七階草とのみ云をれり花は濃紅海老茶上品ハ金銀の覆輪あり下品ハ紅のさへたる色あり

●春菊　一名蒿菜花といふ

土其他植替に到るまで櫻艸に異ることなし

圖に顯す如きのものなり餘り眺むる花といふにあらず花壇中百花の内に交へて見れば大きによし

此の種ハ土の如何なるを嫌ハず肥は薄き尿べんを根に澆げバ充分なるべし最も一年も
のにて種蒔のものなり

●金盞花

圖に顯す如く花形盞に似たり故に金盞花の名あるも今は誤りて金錢花と云へり金錢花別種のものなり花は色黄赤にて好花といふにはあらず春菊に聊ゝ勝れり最も一年艸にて種蒔のものなり種は肥土に蒔肥料ハ白水又ハ尿べんを澆もよし

●華蔓艸

其形ち華蔓に似たるか故に名づけたるものなれども一名藤牡丹と云ふ艸花なり尤葉は牡丹の葉に似たるもの故かくは云ひしものなり花は薄紅のものゝみ

●麗春　一名御仙花といふ

圖に顯す如く至極美麗の花なり一重なるは本紅にして下品なり八重は本紅にて褄白く最上品のものなるべし就中花壇ものにて鉢植のものにあらず往古多く植たる花なれども近來は稀なり惣て此の種の如きものは肥土植てよきものなり又肥も油滓などにて充分のものなり併し餘り肥過る時は莖延て花首弱く葉肥て花少くなりて如何にも見苦しくなるものなり

●蝴蝶花

圖に顯す如きものにて左のみ愛する花にあらず併し百花の中に交へて妙なり蝴蝶花は通稱「しやが」と云ふものにて平庭數疊作の捨石などに添ることあるものなり

此種ハ陰土に植へてよし葉の出たるより葉の枯る迄は肥を澆ぐべからず冬の季に肥料用ゆべし冬季なれば何肥にても餘り差支なし併しあるべく下肥か油糟を良肥とするべし

●他偸

圖の如く艸花にて花の色は其種類多し黄色あり白にて花びらに移り色あるもあり紫他變もあり最花の異り色多くして殊に花の時節は舊暦の四月頃より咲もあり又秋になりて咲花あるものなり此種は肥土に寄芥砂を交せて植るべし肥は油滓の水にてとき腐れたるものを澆ぐの米のかし汁を澆くもよし

●翁草

其形圖の如くにして葉の芽立たる時は雪の

如く白し日を重ねるに隨ひ青色となり又虎班のものありて「せうがひげ」の如し葉は三方づきのものなり此種ハ黑土に植てよし又植てより肥料は餘り澆かぬかたよし肥過れば葉延て見にくきものなり

●麒麟草

圖に顯す如く葉ハ辨慶艸の如く小葉にして葉の淵に切れあり花の色黄にして一ッ所に纒りて咲花も又辨慶艸に似たり葉は三方につきて莖太きたちの艸なり植るには肥土なり肥料米のかし汁を澆くべし餘り度々與へるはあしゝ

●草ひゆう

圖に顯す如くびゆう柳に似たり花黄色にして花瓣芙蓉の如し中蕋短かく葉「おときり草」に似たるものなり左程眺めの花にはあらず花壇中百花の中に交へて與を添へ

り植るには肥土に田土を三分の一交てよし此種ハ根の強たもの故他の草ものと一つ植込置バ負る花ものあり如斯きものなればあへて肥料ば與へざるも差支へなきものあり植替ハ花咲て後にすべし

●富氣草　金鳳花とも云ふ

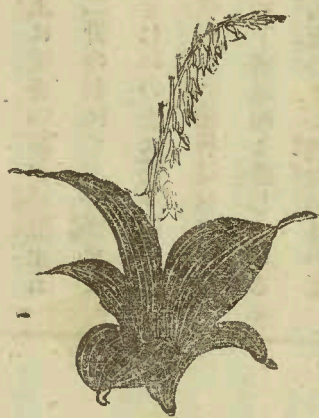
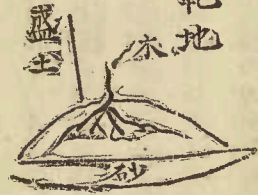
圖に顯す如く梅の花の形ちをなし蕋立延金色の大輪なり上品よは八重あり千重あり白あり此等を薩摩きんほうげと云ふ植るには肥土にてよし肥は米のかし汁を折節澆くべし植替ハ花咲て後か又は秋の中半にすべし

●玉簪花　擬寶珠　一名白鶴仙とも云ふ

圖に顯す如く最とも種類多きものにて葉の淵に白の蚊摺あるを府中擬法珠といふ

葉に斑入あるを文鳥擬法珠といふ又金蘭といふあり葉は並の擬法珠に變ることなし花は雪白なり併し葉極細し又擬法珠中の一種にして葉艶あり高さ四尺ばかりあるもの此を大ぎぼうしゆといふ此種類は惣じて赤土に植てよし肥料は魚の洗汁か米のかし汁を折節澆ぎ與ふべし植替根分などには秋の中半をよしとす

●牡丹

如何にも培養の六ッケ敷ものにて第一濕地を極めて嫌ふものなり故に成丈高く乾き

たる所へ植るをよしとす又庭によりては極濕りがちなる地質もあるものにてかゝる場所へ植んとするには地上へ豆砂利と其上に流寄の砂を盛黒土五升赤土五升砂二升の割にてよく掻まぜ今一度篩にとをし砂の上に盛り圖の如くなして植るべし根分植替は秋の彼岸にするをよしとす寒風稍〻烈しくなる頃には根本へ馬糞のよく乾たるものを

乾地は圖の如くにして地平線より少し堀りて砂のみを入べし砂利は入べからず

濕地は地平線より下へ堀りさげ圖の如く砂利を入れ花壇を造くれば根の腐る悪ひなし

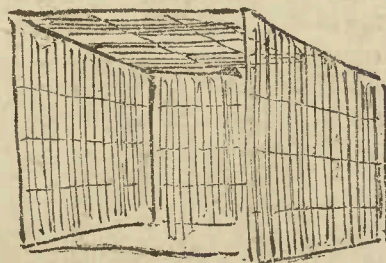
かけ其上に厩の寝藁をかけ又其上より留置の尿べんに水を當分に割て一二度澆ぐべし積雪なき土地は通常の屋根其外惣じて圖の如く風貫よきやうになすべし雪除の内餘りむれ過る時は花咲頃に到りて様〻の害を起すものなり積雪多き土地にハ尋常の屋根にて壓潰れる患あるにより圖の如き雪除をするものあり雪少なき土地は舊の二月頃になりて雪除をとりのけ三月頃に到て馬糞藁とも取除き花咲頃に至らバ圖の如く蘆簾にて掩ひをなし雨の降る時ハ其上より桐油を懸雨にあてぬやうに注意すべし又幹に圖の如き苔虫の多く付時ハ竹篦にて剝し「テレメン」油を塗り置二三日を經て米泔汁をもつて洗落すべしよく

大花壇なれバ成丈け高く造る方をよしとす然し定度は左の如し

大花壇なれバ高さ七尺迄

中花壇なれバ五尺より六尺まで

注意すれバ苔虫の形を初て發見たる時數度其上より「テレメン」油を塗りつくれば忽にして驅除するものなり苔虫は蕾又ハ葉につき其他の諸害何れも寒中雪除の風貫惡きより起ることなり併し積雪多き土地には何程掩さるも其害なし

小花壇より中迄のものハ前高に造るべし

一牡丹ハ花葉共八ゞ俗稱を下して一重或ハ八重咲又は乱れ受咲其外名附る所何れも花形の異名にして更確たる名稱を知るものなし故に左に印るす所の名稱を見て花の如何なるを知るべきなり
先牡丹は花を九品に分ちて見るものなり九品と云ふことハ一位二形三色四重五實六蘂七葩八葉九木也一に位といふに四等の分ちありて一位と云ふは尤あるものなれども此をして眞に一位と云ふものを見たるものなし二位又は三位をして最上品とする

ものにて四位となりては通常ありふれたる花を云ものなり又次きに形と云ひて此に五様あり「富貴」「艶麗」「厳格」「亂雑」「枯槁」等なり富貴及艶なるものを最もよしとす第三には色に二種ありて咲初に赤ミたるものハ珠玉咲と云ふ又咲出し青ミを帯たるものは碧玉咲と云ものなり珠玉咲は花に充分の艶あれども碧玉咲は花に艶なし又花に酔あり或ハしみあり酔しみ抔のあるものは上品の花外のものとしるべし併し牡丹も次第に變り花多くなりて花の大則によるものゝみにあらず年々種々雑多にして酔の姿あるも上品の部に入るほどのものもあり又しみありて大ひに人の愛翫するものもあり殊によりてハ何れが富貴より出たるか艶麗より變りたるものにや又は厳格及乱雑枯槁等より變じたるやハ終に見分くる能はざるに到りたるところあり此は實物とよく照してハ、花の如何なるを引比べ見るべし又葉にも種々あるものにて尤上中下の三段あれども葉のみは敢て多分の葉名なく只大小長短蹙縮弱垂形及圓尖あり又葉筋の平らなるもあれば又窪みて下がるもあり併葉中の上等として見るべきものは第一細葉の強きものをよしとす次に巻曲なるものをよしと云ひ其次ぎなるものはのびやか

にして直ぐなるものを上品として見るものなり

●芍藥

圖に顯す形ちの花をして上品と下品との大畧を示すものなり圖する處の上品とあるもの何れも一重なれども葩厚くして堅し花半開となる迄蕋を見ず蕋稍〻顯われて穏やかに開く此王將軍の類にして最上品なり又蕾のうちより蕋顯れ蕋ぎれなる小葩と共見ゆるは俗稱馬尻いふ最下品のものなり植るには芍藥にかぎり砂眞土に限るべし根分植替は花咲て後にするゝ又秋の中半にするもよし併し秋は植替のみにて根分は花の後に限るものなり秋の末になれば圖の如なし根本へ馬糞の乾きたるものを置き厩藁を置など惣て牡丹と同一なり又肥を澆も同様に心

此の所は割口へ糞灰を付け植る図

雪の際の幹のまねじめを置る図

其ねじまるめたる上へ馬糞をうけ又其上を薦ま掩をひ寒雪の凌をするものなり

得てよし
花の種類は先づ其方略を陳るものにて其審びらかなるを之るさんに芍藥は牡丹ほどに花類の階級を云ふものにあらず先づ芍藥の「玉競」などの類を朱玉咲とするものにて最も花に艶あり併し葩は「玉將軍」又は「谷白」に比しては薄きものなれども艶紅のものには最上品の花と云ふ谷白なるものは牡丹の碧玉咲にて此最白花の上品にて可なり艶もあり花葩も厚くして中〻見事なるものなり其他上品にも種〻あるものにて花形も亦種〻なれども葉に到りてはあまり左のみの變りなきものなり併し葉の厚薄ありて上品は厚く且つ堅くしてすなをふれども下品の花は葉薄く垂れるものなり

圖に顯したるものは「谷白」にして花中に蕋やうに小葩なるものはよてなかには長く伸び上り又白き内に極上紅の蕋中にさしたるとこ

ろは尤見事のものなり先菊(まづきく)にしては丁子咲の如(ごと)きものにて碧玉咲の上品なり圖に顯すところのものは「玉競」にして此形落花に到る迄体を乱ださず濃紅のものまづ朱玉咲の随一たるべし

次に「行燈」の如きは「伏見」よりも劣るものにて藥種(やくしゅ)の草(くさ)なり

●菖蒲(あやめ)　俗に花菖蒲(はなせうぶ)と云

菖蒲は艸花の中にて秀艸として眺むべきものなり此(こ)の種(しゅ)は培養(ばいやう)次第にて隨分大輪(だいりん)の花

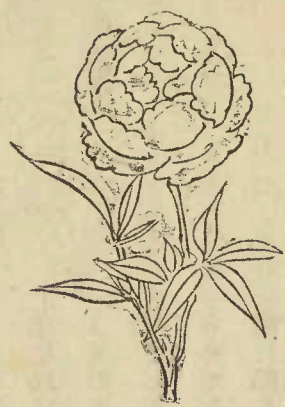
大空

座間の森

九紋龍の類

石橋

唐子遊

六ツ瓣(ヒラ)咲

を咲かしむるに至るものなり變り花の種類ハ數多なるものにて其昔し賞美せしも今は絶へてなきが如し大空とて圖の如き花形なり石橋と云あり海原と云あり朝日影又波の面、雲井鶴、七福神杯云花ありて中には今に殘りて培養し居る品あり當今の上品にては坐間の森、唐子遊夕日の煙りなど尤美事のものなり

植るには赤土に野土と砂を交て水を張り土をくさらせて田土の如く變するもよし尤年〻花咲て後古根を取捨植替をすることとなり花壇と云へども尋常の花壇にあらずして地を堀り田土を入れ水を聊か宛與へるようになし肥料は寒中に充分施しをき春になりては肥をあたへず蕾の顯れてより花開くまでハ充分に肥料を與へることとなりさなき時は花色惡しく又花輪少さくして眺ものにならず又此を岡植にする時ハ濕らず乾かずの地に花壇を出來して至て適土となすべし肥料は寒中留置の克く腐りたる小便を二三度灌ぎ春の彼岸頃より花の蕾を見る迄ハ時折米漕汁を澆くべし併し餘かけ過くれバ花頸弱くして見苦しきものなり又葉も弱くなりて先の垂るゝなど何れも肥の過たるによると知べし

●撫子

撫子は花の色種多きものにて白あれバ紅あり薄紅あり絞りあり咲分あり此何れも一ッ種のものを蒔通して變り花を作るものなり其變り花蒔通しとは花咲て實を結びたる儘蒔たるとも變るものにあらず花咲たる時甲に紅の花あれば乙の白花と蕋の花粉を交へて實を結ばしめそれを蒔ものなり蒔には鉢にても肥土にても床を拵らひ其上へ核子を散布し其上へ砂の細きものを薄く散布して核子を隱し置けバ芽を出すものなり中半成長したるものを植替るにハ馬糞を克切込たる土をよしとす

●高麗撫子

此の種類は變り種をとるに到りては常の撫子に劣れり其他培養の點になりてハ更に異なることなし

●葵

葵は最も種類の多きものにて一種毎ゞ異名を持たるものハ形ちも又更りたるところあるものあれども形及花形に至る迄同様ゞ見へながら種類を異にするは關東葵なり此ハ幹長く延立ち塀の外より見るに至れり又如何程培養するも延すして花多く着あり花の色ハ薄紅あり紅あり白あり紫あり濃紫にて黒と見るものあり此等を最上等とするものなり葵ハもとより種蒔のものなれども年越のものにあらざれば花をもつものにあらず植替は秋より赤土肥土の當分に砂を交ぜて用ふ肥料は寒中下肥を二三度灌ぎ置べし

●錦葵

小葵ハ名のみ優美にして左程賞するものにあらず花小にして花の種類色數もあまりなきものなり培養の點に至りて葵と異なることなし

●蜀葵

此の種類ハ花八重、千重有りて花色一層美にして艶あり色の變りは紫もあり又濃紫ありて黒に見る程のものありせだけは低くして大ひに眺めとなるものなり培養の點に到りて何れも更ることなし

●泡盛

此は差したるものにはあらず只細かなる花の集りて泡を盛りたるが如く見へるを愛するものにて色は薄紅なり植替は秋にて赤土に肥土少し寄沙を交て用ふ肥は寒中下肥を一二度灌ぐべし又一度灌ぎ置春の彼岸頃になりて魚の洗汁を澆ぐもよし

●剪春羅

花之圖の如くにして赤き樺色なり根は年越しのものなれども種蒔のものもよきものなり併し芽蒔は年を越迄葉青くして見苦きなれども外に變る事なし又實を結びて後直ちに蒔置ば翌年は越艸となる故充分のものあり土ハ泡盛の分量にて差支なし肥料ハ油滓又は白水魚の洗汁など至極よし

●剪秋羅

此は其形がんぴと更に異なるところなし花色美麗にして朱の如くなり葉色は濃き濱茄子色なり

●紫蘭

培養は右に同じ

此れ隨分強きものにて土の何たるを嫌らはず只寒中に下肥を二度斗り灌をけばよし併し植替は秋の彼岸まするをよしとす

●鳳仙花

此れ春の彼岸に種蒔にするものなりあまり可もなきものあれども花は白あり紅あり又絞ありて奇麗なり土れ滓土又れ溝土の篩たるものに限るべし肥料は魚の洗汁白水等なり

●紫苑

紫苑は如何まも強き艸花にて濕地を好めるものなり左れバ又土の好嫌なし併し植替をなすにれ秋に限るべし肥料れ魚の洗汁を澆ぐか又寒中一度下肥をしをけば宜敷ものなり

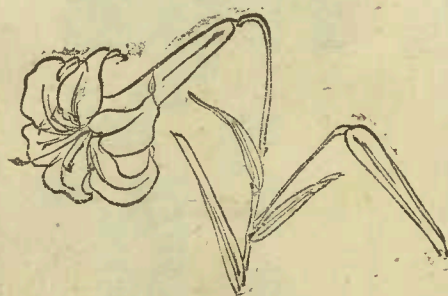
●百合

ゆりは殊に種類の多きものなれバ名も又隨て多し然れども當今は百合の花を眺むるよりも芳香を好めること歐米人より傳はり故に流行も舊來ま比してれ大ひに盛なる

ものなり併し芳香を多く蓄はふるは圖の如き花形に多ゝ最竹島などは根の玉一ッ五十圓位したることあり植木屋などは中に玉を盗まれぬかと疑を起し上品の畑へは芽の克延る迄他の下品なる札を立置程のことなり尤百合ハ一ゝ種を上る時は多きものにて此迄名を著したるものは世に數多きが故爰にしるさず只流行するところの名品のみを掲げ置ぬ

培養法は随分六ッヶ敷ものなれども土は赤土のよきものを撰み寒肥をし置けば随分育ものなり六ッヶ敷とは花を六輪に咲せるの爲なるべし

●日廻り

ひまわりは種蒔の一年艸なり此ハ種蒔の時注意してよき床へ蒔けば尺斗りになりて

より強きものにて土の好嫌なし肥ハ白水か又ハ魚の洗汁に限るものなり

●鶏頭華

鶏頭ハ一年花にして種蒔ものあり種は肥土の床へ蒔植替る時赤土と割たるものへ栽へ油滓又は白水を根に灌べし小便を澆ぐなればあめ前をよしとす又自然の肥料には家越に植へて塵芥を吸はせるに限るべし

●唐松艸

唐松艸は種〻ありて單に唐松艸と云あり秋唐松と云あり又野唐松とも云ものありて何れも大いなる更りハなきものなれども多少其趣を異にするものなり土ハ肥土に赤土を交て植へ肥料は雨の前なれバ小便のよく腐

りたるものにてもよし併しあまりきゝ過ぐれバ葉肥て花少さく咲ものなり日でりの續きたる時水代りに白水又ハ油滓を水に容解たるものを灌ぐべし

●千鳥艸

千鳥艸は又一種のものにて極めてつよきものなり土は赤、肥の兩土へ寄砂を少し交て栽る時ハ克く成長してよし肥料は油滓の容解したるものを灌ぎてよし

●釣舟艸

此を植るにはさしたる土を撰ぶものにあらず併し千鳥艸の土と同様にてもよし肥料は魚の洗汁にても又白水にてよしあまり灌過ぎハあしゝ

●厂來紅

厂來紅ハ葉鷄頭とも云此種は常の鷄頭と大ひに異なり葉は黄紅青濱茄子色の斑らにして尤も奇麗なり厂來紅は下肥を嫌ふものなり土も肥土は惡しヽ溝上げの土に赤土を交て栽れば至極よし肥料は白水魚肥油滓の水に解し腐敗したるものなどハよきものなり

●秋葵

黄蜀葵とも云ものなれども花は極濃紅もあれば黄色もあるものにて

通稱此を立葵とも云ふ植替は花後にして秋の彼岸過なり肥土に砂を交るか又溝土に赤土を交せ又油滓の粉に交たるものを交て植るもよし肥料ハ寒肥を二三度するものにて何れも蜀葵は秋の末になれば幹を切とり其上へ薦又ハ藁をかけ置翌年春の彼岸頃になりて其藁を取除くべし

●金錢花

午時花とも云ものにて一口に金錢花といふが故に金盞花と思違ふものあり金盞は春咲きて花盞の如く色樺に赤を含めるものなり此の金錢花秋のものにて花色紅の如何にも奇麗のものなり土ハ赤と肥當分にてよし肥料ハ白水か油滓にてよし

●芙蓉

圖に顯す如く尤花の種類多きものにて白あれバ紅もあり又濃き朱紅色あり一重あり

八重あり千重ありて眞中の高く上りたるを矢倉咲と云ふ又ねぢれて上りたるものにゑぼり或ひは星入のものあり植替は秋の彼岸後にしてよし土は赤に肥砂又ハ溝土のよく篩たるものを何れも當分に配合して堅く植るべし肥料ハ寒肥を二三度なし寒中より春迄は根に藁をかけ置植所ハ花壇中う日當りよき所へ植置べし

此他花壇物として植れば何種類のものなりとも花壇ものとならざるものなし一々記するも冗長に渡るを以て略す故に盆中にあげて眺むるともあまり面白

きにあらず又花壇は其質によりそれ〳〵の造りかたあるものにて極の乾き地を好あれバ濕地をすくものあり同じ濕にても其の濕の所へ高く土を盛りて植るかたよきもあれバ乾き地を低く堀りて花壇とするものもあることにて就中花菖蒲などの如きは乾きたる所を堀りて水を溜植るをよしとするものなり併し植物は同質のものにても風土によりて異なるところあるものなれば北越あたりの土地には菖蒲を水氣のなき花壇に植るを常とする如き差あるものなれバ其他この類のものあるとしるべし

●庭物草花之部

庭物と名づけたるは木の根又は垣添飛石立石捨石などに添へて植るものを云へり何れも其心得なくして勝手に庭物を花壇に花壇物を鉢に栽るは是元來知らざれは止を得ざる次第なり然れども緣日植木屋の如きは庭物又ハ花壇物の差別なく鉢植となすハ此路傍に持出て鬻の便なれバなり又は愛して眺る人其區別をしると雖植るの花壇なく庭を造るの地なき住へなれバ據なく鉢植とするの外なかるべしあながちに咎むるなかれ此を讀人えるのみにして足れり

●雪割草

是を植るは築山などの立石又ハ捨石の間に添るものなり黒ぼく三舛淖土の篩ひたるもの當分鳥の糞聊交合て植るをよしとす又鉢へ取りても此の土にてよしあまり肥過るはあしきなり日向よき所を好む草なり

●菫

是は小庭の飛石又は松の根がた芝生の間だへ植るものなり下品は捨置とも年〻繁殖して庭一面となり上品も雪割艸同様に培養せざれバ二三年にして跡方なく消るものなり

●升麻　一名鳥のあしといふ

是は捨石の間又は松の根がたなる芝生の中へ植ものなり然れども芝生の中ハ注意し

て芝の根を取ぬけ置かざれバ其根を害するなり山土へ渟の土を篩ひ當分にして植るべし

●兒花　一名唐兒と云ふ

是は野ニ咲草花なり故に廣野造の庭石の間〻へ植るものなり植るには野土ニ肥土を當分に交るをよしとす元來野生の草花故あまり培養に注意せざるも差支なきものなり

●山吹

是は垣根又は見隱添に植るものなり世の人〻

中には白花を好むものあり然れども山吹は一重にても八重にても黄色のものに限るべし土は肥土へ眞土を少し交せて植るをよしとす肥料は白水又は𩸽肥を用へなるべく山吹は充分肥すやうになすべし

●擬法珠

是れ數種あるものにて花壇ものあり又庭添あり庭石へ添て植るは縮緬の廣葉なり土及其他培養法ともに同一のものなり

●石荷

是は庭木の根方に植るか捨石の蔭ぇ植置ものなり惣て濕地を好むもの故植るにも蔭土ぇ三和土の少し交りたるものにすべし肥料は秋の頃より冬まで薄肥を二三度澆ぎ置をよしとす

●麥門冬

一名龍の鬚とて淋しき庭の木蔭又ハ石燈籠の小蔭或は檐下の雨落などに栽るものなり是も石荷同様蔭土に植てよし肥料は敢て灌に及ばす塵芥など根本に置をよしとす

天南星

南星ハ深き藪中に生づるものなり故に是を植るハ廣き平庭の下手なる雜木の茂み藪だゝみ等の濕地めきたる塲所へ蔭土にて植つけることとなり別に肥料を與へるに及バず木の葉又は笹の葉など自然に腐れて肥となるものなり

杜若

杜若は尾上風の平庭なる池の邊りへ植つけるべし花は淺紫上品は薄紫あり此種に雲井今少し白き方のものにて白妙紫に紅氣さしたるは八ッ橋と云ふあり植るにハ田土にてよし植替は秋の中半にすべし肥料は鰮肥又は芥などを根元へ押込置をよしと

す

●梅ばち草

是ハ庭池の水吐とて流下の幅狭なりたる所へ植つけるものなり植るにハ河の寄芥砂にすべし別に肥料にハ及バず池中の水垢又ハ落葉なその腐水にて充分肥となるものなり

●河骨

此も同じく池中の植物なり元来水中に植るものなれども梅ばち草に比してハ上の淵なり植るにハ田土にて最よし肥料ハ鰮肥を折節根に差入置バ充分の肥となるべし

●澤桔梗

沼池造惣て田舎めきたる庭の模様に植込も

のなり尤土は河骨も同様にて肥料はチト河骨に比しては多量に與へるはうなり又池中植込ヶ所は圖を見てしるべし

●蓮

沼池の廣く見せたるものにて左のみ築山の造り付なき体に限る土ハ澤桔梗同様なれども根を食料に用ゆる時ハ植込てより池中に入四五度根を振りて土離れをさすべし小根土に固着すれば繁殖少なし肥料ハ鰛肥にてよし併澤桔梗に比してハ多量に施すべし

●菖蒲

池の流下なる細き溝やうなる所へ植るものなり最田舎めきたる様を見せる趣とするべし土ハ何

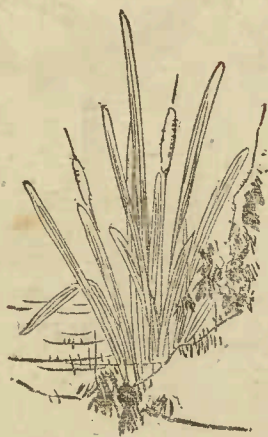
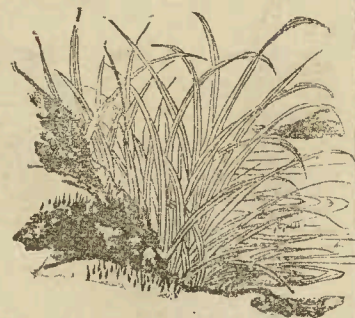
れも同やうなり肥料施てさゝるも差支なし植付は秋の中にすべし

● 菰

是は古池造りの体を見せるものなり圖の如く池の片隅に植る趣向のものにて土ハ何れも同様肥料は別に與へるに及ばず自然池中の水垢にて育つものなり

● 蒲

圖の如き場所へ植込ものにて菰に比すれば遙か上等の植込ものなり土は何れも同やうなれども肥料は鰮肥にても聊か根に入るゝをよしとす

●葦

池のあしらいものにて植所によりて上品なり土は何れも同やうにして肥料に及ばず植込ハ秋の中にすべし

●金銀蓮

圖の如き浮草にて池中の木蔭に植込庭の面てを古く見せる植ものなり土は池の土の儘にてよし併し堀立の荒池なれば更ゝ田土を以て植つけべし

●小杜若

圖の如きものにて小庭の石蔭に植込ものなり土ハ肥土にても又蔭土と肥土を當分にても差支なし肥へは白水を二三度も灌

ぐべし併し冬根を殘す艸物はなるべく秋より冬迄に充分仕置くべし是は下肥にてよし

●玉柏

庭の石蔭などへ植付至つて面白みのあるものなり併平庭の石蔭よりハ築山の石間に植込ば天然の姿なり山土に植肥ハ白水を折節灌ぐもよし

●萱草

庭の下手なる籔疊の趣向へ造りたる所の石蔭に植込草質なり蔭土に三和土を當分に交て植るをよしとす肥ハ秋より冬迄に二度斗り下肥を灌べし

●姫萱草

惣じて右に同じ

●忍冬

是も同じく庭の下手なる垣などに懸るものなり土ハ右に同ド植替の時根の痛なきやう注意せざれバ消やすき蔓なり

●鴨跖

是ハ廣野の趣向に造りたる庭の植ものなり土の嫌なき肥は白水にても折ふし灌べし植替る時根の土離せぬやう注意すべし

●酢漿

小座敷などの擔下に植る草ものなり植替るには根の土離せぬやう注意すること鴨跖より一層なり併し根を其所へ下て後は強きものなり肥ハ古き根駄下の土を根本へ散布すべし

●秋海棠

小庭の袖檣又ハ擔下落間などの植ものなり蔭土

に古き根駄下の土を少し交て植るをよしとす肥は別段灌ぐに及ばず家内の塵芥を根に吸ものにて天然の肥料となるが故なり植替は春の彼岸又は花後にすべし

●杜蘅
庭石の添草なり蔭土に合土三分一を交て植肥ハ白水を折ふし灌ぐべし植替は秋なり根に障ぬやう注意すれば寒中の外差支なし

●木賊
平庭の大なる捨石などの植添よするも一層の見物となるものなり肥土に植肥料は下肥を澆べし

此は充分肥て高くなるをよしとす

●鼓子花

晝顔ハ牽牛花に比すれバ最劣たるものなれども近時は追々数種の花を見るに至れり薄紅に白の星入又ハ絞純白などのものあり此は庭の雑木に懸て自然の趣を見せるものなり植るは野土にてよし肥は魚の洗汁を澆ぐべし

●美蔓艸

廣き平庭の下手なる木蔭又は籔ぎハなる濕地の所へ植る草花なり又自然に生る所も麓などの森蔭なり故に日向の强き地よ植るとも地に馴染ずして忽に消るものなり植るには蔭土に限肥は秋より春の末迄落葉をかけて置べし

●芭蕉

植所などは誰も知ることにて爰に記るさず植替は秋の中半にすべし肥は冬雪除をする前に一二度薄き下肥を灌ぎ松の落葉など懸置がよし

●萩

廣き平庭にて野分の趣向ゐ造りたる片隈などえ二株三株に分て植込ハ至極面白みあるものなり植るゐは肥土にてよし植替ハ秋の彼岸にして下肥の薄きものを一二度澆べし併し植替の當座は澆べからず

●女郎花

是ハ植かたにより庭ものとして極面白きものなり趣向ハ圖の如し植るにハ肥土と野土を當分に交てよし植込をするは花の後にすべし肥ハ芽の

出てより二度斗り下肥の薄きを澆ぎてよし

●桔梗
桔梗ハ花壇植にするもの多し何となれバ趣向あしき時ハ俗となりて庭の風致を乱す故なり圖の如く植付るには却て風情を保てり土及培養法は女郎花に同じ

●龍膽
花葉ともに圖の如し立石捨石などの蔭に植て風情あり土及培養法桔梗に同じ他に庭もの丶草花なきにあらず然れども植て眺むるの必要なき雑草なれば爰に録せず

植木庭物の部

凡て植木と云へば何れも植木にして一ツも植木にあらざるハなし然れども其木質又は風体或ハ花によりて盆栽とするあり盆裏にありて雅賞するあり俗愛するあり此部は最も植物中庭木として眺むべきものを撰えて載せたるものにして又土も此に隨て育安きを撰擇して只見る人了解し安きを勤めたるものなればなり併し庭木ハ何れも其質によりて栽所を異にするハ第一に似合と不似合とを以てし第二は自然木質により家近き所に植て育つあれば木蔭に植る灌木あり木と木折重りて育つ喬木あり又は捨石などの邊りに植る草木同様のものあり故に草木培養をなすにも皆其植所あるは天然なるハ論を待たず此を過つて見る時は草木を培養するは庭造法に近しと思ひ過つ事なあれ

●山茶花

圖に顯す如く最も山茶花は種類の多きものにて極上等品に到りては種〻の花形あり又花色ありて人〻此を好みて鉢に採り室内に陳列し愛して机の上に置て眺るあり如何となれバ山茶花は極寒き時節の花なるにより自然かゝる望みまゝ到りたるものにて

元來庭植に限りたる木なればなり摠方又ハ接方ハ前に詳細を顯しあるにより爰に此を記るさず併し植替をするには古根を悉く切捨て栽るべし植替時ハ嫌なしと雖ども春秋に限るものにて夏と冬は宜しからず肥料は人糞を一年越にしたるものに水を割て澆ものなれども植替て二三ケ月を經ざれば却て害となるものなり此は庭植のみの事にて盆栽にする時は盆栽俗愛の部に顯しある通りにすることなり

●茶山花

茶山花山茶花と違ひ餘り種類の多きものにあらず併し培養は山茶花よりも注意を加へ

ざれば水氣を嫌ふ事又山茶花に倍するものにて水氣なき日向のよき所へ植根廻りよく腐りたる人糞に水を割りたるものか又は油滓を澆くべし人糞よりは素人手にては油滓の方決して過ちなきものなり人糞餘り強過る時は莟にて花首より開かず落るか又一輪も着ぬことあるものなり土は赤土に砂を交たるを用ゆべし人によりては砂を交ぬもあれども砂を入れるは乾きよくして花の着安きものなり

●南天燭

南天は種々あるものなれども圖に顯すものは通

常の質にて家越近き所に植るをよしとす如何となれば根に塵芥を好もの故自然家越に植て繁茂するものなり併し餘り水氣多き地は植る下へ堀りて砂を入れチト高く植るべし土ハ赤土にても又野土を交るも惣て差支なし植替るにハ春秋の彼岸前後にしてよし肥料は茶滓を與ふべし又時折白水を澆ぐもよし併し植替の砌りは決して澆べからず植て二三ヶ月を經れバ小根を下すにより其時に到りて充分肥料を施すべし

●連翹

連翹は餘り六ヶ敷ものにあらざれども惣じて培養をするには其の木質に幾分の土又は肥等に嫌好あらざるはなきもの故注意とするは土あり土は赤土に肥土を三分一割りて植るべし又植所は庭木なれども花壇物同様の場所を好くもの故餘り木の茂らずしてあたりのよき所へ植るをよしとするものなる

により袖墻の根又は庭の間だなる捨石の邊抔に植る方をよしとす植替は秋の彼岸後にすべし併し秋末になりてハ悪し肥料は人糞のよく腐りたるものを薄くして寒中に二三度澆置くべし

●蔓連翹

蔓連翹は通常の連翹を蔓にしたるものと思ふほどのものにて其蔓の長く延ること六七間よも至るもの故棚を造り藤の如く此を懸て棚の上にて咲せるものなり故に其植所は椽先の傍らなる袖墻の邊りに植へ庭の面一抔に懸て咲せる趣向のものなり此は常の連翹より今一倍畑けものに近ければ根に充分土の新きものを入替肥も又充分に施して翌年の春花を咲すべし植替又は土肥料よ至る迄少しも變ることとなし

●棕櫚

棕櫚は元來庭木なれども其植所に嫌好あるものなり常の庭なれば下庭又は庵体なれば入口或寺

院の門内抔に多く植る木なり土は赤土に野土と砂を充分交て植るべし又黄土をよく砕きて交合せ植るもよし是迄云傳るには白水抔にて人糞を肥料に用ゆるは悪しゝと云ことなれども決えて枯るゝと云にはあらず其昔は靈樹の様に思寺院などに植又櫻欄の根に尿すれば其人に災害あるなど云しはどなるによるものと知べし故に糞は餘り宜しからざれども留置の尿を折節根に澆くはよし併し櫻欄は何程培養を勤るも長生に際限あるものにて葉は一年に十二枚より多く出るものにあらず星霜を經ざれば必ず培養の爲に早く成長することなし

●沙羅双樹

沙羅双樹は今世好みて盆栽となすことあれども其元庭植のものなり此は熱帯地に生ずる木なるにより最生育の早き木質なるが故によく生長したる土は庭の茂みに交植る方をよしとす地植となすには赤土に砂を交肥料は馬糞又は油滓を施してよし植替は春秋の彼岸にすべし

●錦鶏兒

錦鷄兒ハ荻花の類なれども花色黄白に樺紅を交へて至極奇麗のものなり併し其植所半毬の如き類にて茂みゝ植るものにあらず又捨石際などに植るにもあらず先垣根に添て植るものなり植替ハ花の後則ち梅雨前後なるものにて赤土に肥土砂聊を交へてよし肥ハ人糞のよく腐りたるものを寒中に二三度澆ぎ置べし

● 花蘇木

花蘇木は如何にも生長の遲き木にして培養を充分に加へざれバ中〻枝梢の延るものにあらず故に赤土に肥土を多分に劑り水氣の少なき場所へ植込最日向がよし餘り木露の落ぬ所をよしとす植替ハ春秋の彼岸にすべし肥料ハ人糞の腐りたるものを寒中に澆ぎ暑中には油滓又は馬糞を根に置てよし此も植て眺とするには錦鷄兒に等しく垣根などに植るものなり

●木蓮

木蓮は地植として培養するには極安きものにて地濕りを嫌ふ患なし又乾き過るも敢て枯るの恐れなし併日向惡きは極嫌ふものにて纔の枝葉に妨けらるゝなどハ延て此を淩ぐものなれども林又は森の如き下なる時ハ枯ざるも花の着惡く植替は時を嫌らいずと云程なり赤土に野土よても又眞土を交て植るもよし肥は差して澆がざるも差支なしと雖ども折節留置の小便又は米泔汁を澆ぐをよしとす併し澆をれば夏ハ白水秋より冬の中は小便とするものなるべし

●天女花

天女花は武藏などにては餘り大樹の少なきものにて多く盆栽のみに止るやうなれども奧羽の地方にてハ隨分大木ありて田地を耕頃に咲が故よ土地の放言よ田打櫻と云ふ又大樹を庭植とする時ハ木蓮と違ひ充分培養せざれバ花の着惡くして殊に生長も遲し植替ハ春秋の彼岸にしてよし肥料ハ寒中に留置の小便を二三度澆ぎ置夏は根に馬糞を澤山に盛りてよし如何となれバ寒國によく育つ木故暑さに負る恐れあるが爲

なり

●更紗蓮花

更紗蓮花は最も木蓮の種類なれども培養に至りては天女花同様にしてよし木蓮よりは大いに育よくきものなり

●蜆花

蜆花は其木質「いせ櫻」に近し併し培養に至りては大ひに異り此は餘り日向過たる場所を嫌ふものにて又土などは赤土に砂を交植るなれども日向の乏しき場所へ植米泔汁を肥料とするが故に自然蔭土の如く變ずるものなり植替は秋の彼岸にすべし別段培養の六ッケ敷ものにはあらざれども暑に植替るは悪しゝ又餘りに肥料を施して肥過さするは尤も宜しからず

●小米花

小米花は名の如く小米のに似たるなり去ながら蜆花も又類似の花なりしが木も又此よ随ふて似たり故に培養も倘似たるなれども蜆花に比しては日向を嫌はざる丈の差

あり其他植替土培養肥料更に代ることとなし併し植場所は捨石垣根際なるべし

●小手毬

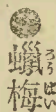
小手毬は小米花に比して大いに強きものなり然ども培養の點に至りて聊か違ふ處は濕地を好める風あり乍去餘り濕り過ても却て根に腐りをもち自然枯れる恐れあり此垣根ものにあらず又捨石ものにもあらず小庭の片邊ある平庭の所に極大株のものを花盛りに持出して眺めとするものなり併し花後更に見る處なし何れも花ものは其姿あるものなれども此の種類小手毬に限らず其趣あるは是非もなき次第なり

●躑躅

元來躑躅は種類の多きものにて就中映山躑躅を最上等品とするものなり併しきりしまの内にても又其種多くして暖國の產は花の色艶もよく花大いにして中〻見事のものあり此を培養するには第一花咲て後枯花の着殘りたるものを取り捨秋に至り小枝の先をすかし根本へ松の落葉を掛其上より能く腐りたる小便を寒中に二三度も濺ぎ春の彼岸前にありて其松葉を取除根本へ肥土に砂を多分に交せて掛置けは花の頃に

なりて充分に咲ものあり植替ハ梅雨の頃にするか又は秋の彼岸にすべし併し梅雨の植替は充分古根を切取るも障なけれど秋の彼岸にてはあまり根のいたまぬやうにして植替るものなり如何となれバ秋は植替後充分の小根の下りぬ中寒肥をするハ宜しからぬが故なればなり土は赤土に砂を少し交又肥土を聊か交るも至極よきものあり杜鵑躑躅は此頃の流行ものにて東京大坂共に花の盛りは所々に縦覧園ありて中々見事のものなり併し此等は壹本の木より種々の色を咲分となし又は正真より紅白の咲分と造り剰へ木の形を笠の如く造り又毬のやうに切込たるもの故遠くより見る時ハ宛がら紙細工を見るに異ならず風流のなきものなり併し培養に至りてハ充分手入をしたるものにて一朝一夕のものにあらず最年数を經たるものハ五十年若木にて二十年位のものなり此は培養方大いに異なるものにて根を無闇に切込又枝先を切詰肥料を充分に施して延ぬやうにするが故暑中に肥を澆ぎあつさに負ぬやう根に日をあてずよ置ものなり又土などは映山

に更る事なし胴段躑躅、香蓮躑躅、黒船躑躅、の類は花後に肥を澆ぐべし併し濕地は何れも嫌ふもの故水氣多き場所は成丈高めに土を盛て植べし併し又土は赤土に黒土を少し交て植るをよしとす三葉躑躅、琉球躑躅、の類ハ黒土を多く交て植るをよしとするなり肥は常に雨の永く降らざる時白水を根に澆ぎ折節は溜置の小便を根に澆ぐもよし併し充分に肥料を與るには寒肥をすべし此は何の質に限らず差支なく木の爲には大きによきものなり

◉蠟梅

蠟梅は木にして其質縷鬮朶に近し植替をなすには梅雨中に限ると知るべし此は濕地を極嫌ふものにて水氣多き地に植れバ自然に枯るゝものなり土は赤土の細かなるものに砂を四分の一加へよく交せて植るべし肥料は植替たる時は二三ヶ月立て後におらざれば小根を充分下さぬ故却て害となりよく〱根を下して後は縕肥を聊づゝ根に入れ五六ヶ月も立て下肥を施し與ふべし此は充分日當りよき所へ植れバ花の艶ハ勿論花の着も大きによし

●金蠟梅

金蠟梅ハ梅雨中の植替よて根下ハよきものなれども暑中へかゝりて植れバ忽に枯るゝものなり植替には赤土へ砂を少し交て用ゆべし併し庭木中雑木の中に交へて植る時ハ却て面白味を増てよし

●鶯神樂

此れ極面白きものにて表庭より下庭へ行く境の地又は垣根などへ添て植れバ大きよよきものなり植替は梅雨の又ハ秋の彼岸にするをよしとす土は赤土に野土を少し交て用ゆるを適土するものなり肥料は下肥の極薄きを用ゆべし

●公の鶯神樂

此何れも常の鶯神樂同様に培養して差支なし併し肥料をあまり過すは悪しゝと云土などに到りても更異なることなし

●柳

柳はもとより垂るゝものにして濕地を好むものなるが故よ表庭より下庭へ移らんと

する境のヶ所に橋など掛たる傍に植る趣のものなり此ハ如何にも培養し易きものにて土などに好き嫌なきものなり肥料ハ掘などの腐り水垢を汲上げて根に澆げば充分のものなり

●白楊

白楊ハはこやなぎと云ふ通称なれども楊と云種類は尤も多きものよて黄楊あり赤楊あり青楊あり此何れも培養よ差したる違ひなし土は柳と大いに異なり濕地を嫌ひ赤土やうなるものに砂交りの如きを好むものなり肥料は生長せぬうちは白水を澆ぎ與ふべし

●水楊

此は楊柳中の下品にして下庭などの堀下なる水吐へ天然の様を作りたる趣に植込こともあり培養ハ柳に等し又生長したるものなれバ植付たるまゝにて宜しきものなり

●猿子楊

此の種類に大猿子楊と云ふもありて猿子の中にてハ上等のものなり培養は白楊など

ゝ同一のものなり併し肥料は今少し施す方をよしとす植替は春秋にすべし

●竈

此種に竈と云あり又七竈と云もありて庭木植込のものなり植替ハ時を嫌はず赤土に砂交りに植るべし

●楙　又木瓜

楙に紅白あり白ハ盆裡に採りて眺るものなれども紅は地植にして垣根添などにするものなり植替ハ秋の彼岸にすべし又赤土に肥土三分の一を交て植るをよしとす肥料ハ寒中薄肥を二三度灌ぎて充分のものなり

●艸楙

此の種ハ本楙に比しては却て培養に注意せざれば生長に乏しきものなり其注意するハ三年に一度位ひハ植替て古根を去り古土を除きて肥土と赤土當分よ砂を少し交て植替べし肥料ハ同じことなり

●櫨

此種ハ差したるもの丶あらず垣根ものにて植替ハ秋なり赤土を好む肥料ハ寒中ヽ下肥を二三度も澆ぎをけば充分のものなり

● 錦帶花

何れも培養に更ることなし

● 柊南天

此の種は樹風の異なるものにて植所によりては至極面白きものなり木性質ハ隨分强きもの故植替に注意すれば左のミのものにあらず赤土に肥土を少し割て植込肥料は下肥の極薄きものを時折澆ぐべし

● 棗椶櫚

此の種も柊南天に等く樹風の異なりたるものも

て培養に至りてハ同様のものなれども植ヶ所ハ平庭などに捨石添として至極見る處あるべし

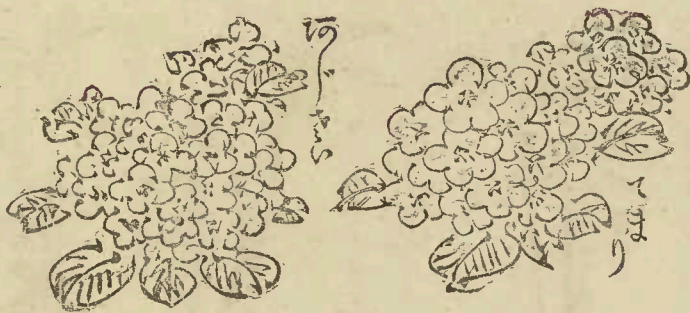
●粉團花

此ハ圖の如く花形尋常のものにて葩五枚なり故に圖して説明を下さゞれバ必定疑ふところあるは無論なり植料は溝土に赤土を割てよし肥料は溝の水を灌げは充分育つものなり

●紫陽花

此ハ圖の如く其形粉團花の如くなれども花瓣四枚にして花色時〻代りて中〻面白きものなり故に此を名づけて七變化といふべし植料及肥料に至るまで粉團花と更に異な

ることなし

●額花

此は種々紫陽花と尤よく似たること花色花瓣に至る迄同様なれども圖の如き花形に纏りをるにより額花と名づけたるものなり花は紫陽に相似たると雖も花色は變せざるものなり植料及肥料に至る迄更に代ることなし

●瑞香花

通稱丁子と云ふ花開けば芳香をはなちてゆかしきものなり植料は赤土に砂を聊か交て植べし肥料は白水又は薄き小便を時折灌ぐべし

●力木

此の木ハ一種類別なるものにて枝は宛がら逆木の如く枝より葉をのべ出したる体にて又葉筋も圖の如くなるものなり最名に脊かず葉の强きこと如何程力ある指先にて引とも必ず切るものにあらず尤庭木の中にても隨分面白き木なるが故植ケ所によりては至極趣あるものなり植るには赤土に野土砂の少しく交て用ゆ肥料ハ常に米泔汁を澆ぎてよし又寒さへかゝりては下肥の薄きものをかけ根際へ藁をかけ寒氣負ぬやうになしをくべし

●素馨

此の種ハ暖國の木にして如何にも日當りを好むものなり庭中植所によりてハ面白きものゆゑ故隨分此を好む人あり植るには赤土に肥土を交て用ゆ肥料は薄肥をしてよし寒中も雪除をなしなりたけ寒さに負ぬ注意すべし

●黃梅

黃梅ハ庭隈の植添にするものなり植るには赤土に黑土を交て用ゆ植替春秋の彼岸にすべし肥料ハ常に油滓を用ひてよし寒さの中は下肥の薄ものも澆ぎてよし

●櫻

櫻ハ殊に種類の多きものにて其中培養し安きハ吉野それに次千本なり山櫻はよく地に馴染てハ培養に及ばざるものなれども山出しを植付る際注意せざればかれることあり彼岸櫻も差ゑたることなし楊貴妃、鹽竈、淺黃櫻、大手燈、虎の尾、の如きは隨分地質により馴染がたきこともあれども濕地にあらざれバ地土を取除き更に赤土に肥土を少し交せて植れバ決してつかぬと云ふことなし肥料は寒中下肥のよく腐りたるものを二三度澆ぎてよし併しあまり肥過てハ却て花着あしくなることあり

●海棠

海棠は如何にも培養し安きものにて株より別れて成たちたる木などは秋の彼岸に根分をなし其分口へ藁灰を塗りて田土のよく乾きたるものを篩ひて赤土を少し交て植るなれバ充分育つものなり肥料ハ時折根へ魚の洗汁を澆ぎ又寒さになりては一二度も下肥を澆ぎてよし

●辛夷

此は木蓮の培養と大して異なる處なし併し餘り濕地に植れば花底の移り色薄くなる愁あるのみ

●厚朴

辛夷に比して餘り更ることなき培養なり併し濕りを厭はず又日向惡しくとも差支へなきものなり

●槿

槿は薄紅のものありチト紅色の濃ものあり白あり又一重あり八重ありて何れも培養

に安きものなり植替には時を嫌ハず植るに所を嫌らはず併し濕地を好むもの故餘り乾き過る土地ハ宜しからず植るに淖土又は溝土のよく篩ひたるものに野土を交て用ゆ差したる肥料はいらぬものなり

●濱茄子

濱茄子は野薔薇の一種なれども目先新らしき樣に思ふ木艸なり云はゞ艸棡などゝ其骨幹相似たるものなれば圖の如く低くし花は薔薇に似て色は紅に黑みのかゝりたるものにて一般かゝる色を通稱濱茄子色と云ふ土地によりては色の薄きあり又濃きもあり植料は赤土に砂當分にてよし肥料は小便の極うすきものにても又油滓にてもよし又薔薇の如く培養するも差支へなし

●楮

此の木の如きは庭の繁みに植こみの下備へをなさしむる雑木の一種なれども下庭の片隅などには随分植込になしあるものなり此れ「かうぞ」といふ紙を製するものにて其實畑ものなるにより桑などの如き作り木なり植料は赤土に砂又は肥土を少し交せて用ゆるもよし肥料ハ下肥を與へて作るものなるべし

● 薜茘

此の木は植根履に植又ハ下庭の境などに大ひなるものを植捨のやうなしあるものにて一名を木饅頭といふ葉は班葉のものあり並葉と班葉と源平のものあり班に金銀あり夏日ハ葉を見るのみにて青くしたるも秋の末冬の初に至りて實熟する故に割れて裏より赤きを顯すものなり此の種は土を撰らバす何土にてもよく育ふものなり肥料とても別に與ふるに及バざれども家近き所に植置けば自然よく肥るにより塵芥をすくものとしるべし

● 木樨

此は桂にして一名岩桂花など云ものなり花開けば良き香りをはなつものにて白き花

は銀木樨と云ひ黄色の花を金木樨と云ふ此の種は
尤庭木中の上品にて其植ヶ所は何れを嫌られず庭
の位置又は造り方にて様々なるべし植料は赤土黒
土砂何れも當分にて肥料は油滓の類にてよし

●冬青

庭木の一種にして植込となすものあり併し大木と
なりてハ随分宜敷ものなれども小樹にては見るに
たらず此種も敢て土の嫌ひなきものなり肥料も又つとめて施こすに及ばず併しあま
り乾地は悪しゝと云へり

●黄楊

此種は庭木として最上品なるにより庭中何れのヶ所を嫌はず植替は春秋の彼岸にす
べし植料は赤土に砂三分の一を交て用ゆ肥料は雨前に折〻極薄き小便のよく腐りた
るものを灌ぐべし

●衛矛

此は「くすまゆみ」とて圖の如くの異木なり何れも庭木の一種にして其植所によりては至極面白き木なれども落葉後一入の眺ある木なり土及植替其他肥料等ゟ至る迄黄楊同様にてよし

●紫荊

圖の如く大木となるものにあらず庭の植添ものにして云はゞ墻根添として植る木とするも可なり黒土によくなじむもの故日蔭の所却てよし肥料ハ馬糞の類大ひに適せり

●五架

五架は紫荊ゟ等しく大木となるものにあらず土及植所土其他肥料等に至る迄紫荊同様

に心得てよし併し紫荊なれバ庭より捨石などの添になしあることあるものなれども五架は下庭の境などの墻根添のものとしるべし

●欅

庭木として見るものにあらずとかれども大木となるもの故庭の茂ミに植込ある種類なり又土などハ撰むに及バす

●椋

此の種も欅同様にして敢て土に嫌好あると云ものにあらず又植に至りても更に異なる事なし

●梔

此の種も庭の茂みに植込ものゝ類にして左ほど愛する植木ニあらず花の頃ハ萬木に交へて植込あれバ青葉に添花として大ひに見る所ろあるものなり植替ハ何も春秋の彼岸にして植料は赤土に少し砂の交りたるをよしとす肥料ハ折〻薄き下肥を施すもよし

● 枳椇

庭木の内の雑木なれども下庭又ハ田舎仕組に造りたる趣に適して藪疊などに添て植などするハ大きに面白みあり圖の如き一種の異る實を結ぶものにて好める人ハ却て風情あると云へり又土ハ撰むに及バず肥は落葉などにて充分のものなり

● 漆

此種類なるものハ庭木と云にあらず藪内などに植置バ紅葉をなしたる時見るべし併し人手に解る所にハ植べからず

● 蠟の木

此は下庭などに植込墻根越にして見れバ紅葉したる時大に眺めとなるものなり併し庭木ゟはあらず蠟をとる木なれども數本栽込あれば一入の紅葉なるが故に物好家は愛せり土は赤又は野土の類にて至極よし肥料は馬糞の類大きによきものなり

●紫薇　又怕痒樹

此は猿すべりとて一種異やうの木なり然れども庭木としては上品の部なり土ハ赤に少し砂を交るをよしとす肥料は折に下肥の薄きを灌ぐべし

●合歡

庭木中にしてハ下品なれども敢て悪しきものにハあらず花は至極奇麗のものなるにより廣庭の隅などよりハ遠見にして見所あるものなり尤土を撰むに及ばず又肥料も灌迄のことなし

●槲

此れ樺類のごときものにて一様ならざれども概して庭木と云程のものにあらず大庭などの見隠同様なる繁さに植込ものなり土其他搆なきものなり

●櫟

此種類も槲同やうにして又庭木と云ふにあらず雜木中の雜木なり土及其他槲にかはることなし

●樠木

此種類は藪添にて庭木の最下品なり土其他の嫌好なし植替時節をかまれず

●榧

此は庭木として植るの上品なり植替は芳芽の頃にすべし土は赤又ハ黒土を交るもよしあまり濕り多き所は育あしきものなり肥料ハ折節下肥を灌ぐべし

●榅桲

庭植よして大きに面白みあるものなり此れあまり乾きたる地を好まず濕りがちの所によく育つものにて土の嫌好あし植替は春の彼岸にすべし秋は實をもてるが故にあし丶

●椎

此は庭木として尤植る木なれども小庭ものにあらず大庭の廣庭造りなどの見隱同様に植込みバ庭淋て自づから味をもてり植料は赤土にてよし肥料は時折下肥の薄きを灌ぐべし

●狗骨

此種類は庭木中の最上品なり植替は春秋の彼岸にすべし植料は赤土に適せり肥料ハ薄肥ぐらいのものなり

●梧桐

梧桐は庭木中最上品のものなり地質は餘り乾き地を好まず濕りけある所を好めり植料は赤土に砂を少し交せたるものをよしとす肥料ハ薄肥にてもまた馬糞もよしと云へり

●桐

梧桐と異なり遙か下品にして屏の腰などへ植るぐらいに止るものなり土の嫌好なし併し濕地は育ち遲く肥料ハ芥を根に盛りて大いによし又根際に石を盛れば育ち早きものなり

●榛

甚だ下品にして庭木と云ふにはあらず雜木なれども藪添位にハ植るも可なり尤も土

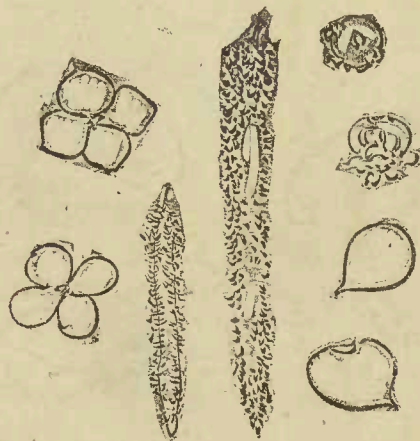
ハ好嫌あるものにあらず肥料落葉に充分せり

●枳

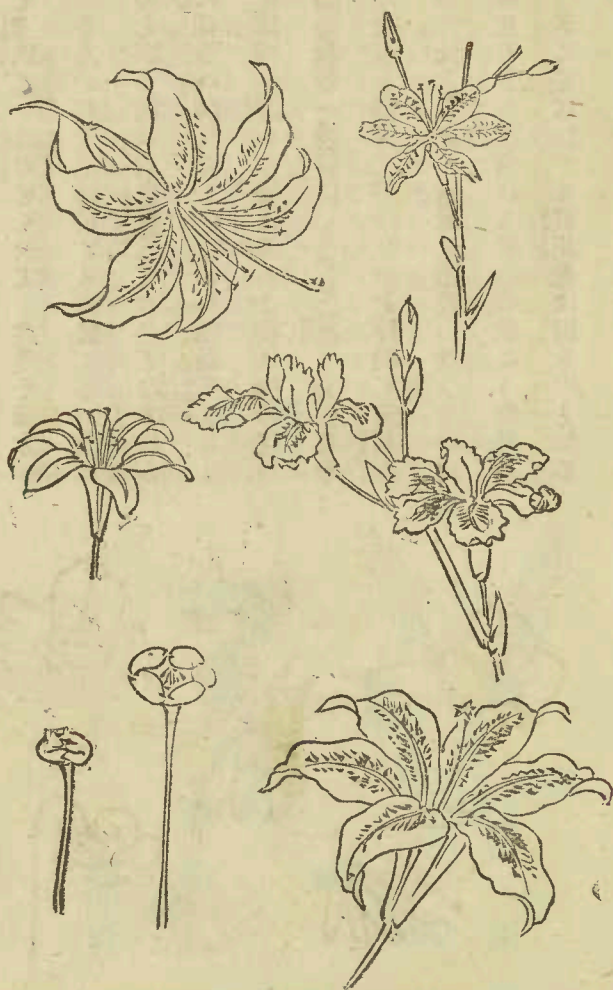
尤下品にして庭木にハあらず要心墻の生墻などに植るのみ併し赤土の如きものに植れバ育ち早し肥料は何れを問はず用ひてよきものなり

右に顯はせるところの樹木をして何れも庭木と云にはあらざれども庭の備へにより愛翫さるゝ木もあり又木として人の指だにさゝれざるものたりとも其適する庭に植へれば一入の見處ありて充分の眺めを引起すことあるもの故何も此木は雜木として見捨るものにあらず故に雜木に至る迄記載せしものなり又庭木として此部中にあるべしと思はるゝ樹木にしてなきもの多きは同じ庭木にても同種類の多きものは單に其部を設けて著はしたるを以て何れも其部類を見て何になるを知るべし又同じ種類のものと雖ども盆裏の培養と地植にしたるものと大ひに異なるところあるものなれバ土及肥料等に至る迄部毎に違ひあるハ必ず惑を起すことなかるべきなり

●花形の異名

圖に顯はす如く花形の異あるは擧て數ふべからざるものなり尤其道なる植木職に之て知ざる者多し爰に種類の大畧を示さんに先通常の花譬ば梅桃梨李の葩を稱して莖葩と云柿の類を秡花と云ふ栗胡桃の類を錢百と云何れも皆其花形によりて名あるものなり紫陽花頷花などを四ッ葩と云又艸花にては秋海棠の類同く四ッ葩咲のものにて他には四ッ葩の花瓣あまたあり

牡丹などは最も異名の多きものにて此は牡丹の部に花形花葩の説明あるが故に爰に記るさず圖に顯す形のものを上實房とて罌粟の類ハ實房上りたるがため一日花にあらず芙蓉又ハ葵秋葵の類花形似たりと雖ども圖にある如く上り女蕋なるが故に何れも一日花なり殊ふ葵秋葵などは秡け花なり何れも一日咲のもの秡花のものと知べし他に此の種類多くあるものなれども一二種の花形を擧て記すのみ

椿は最とも稜咲なれども圖に顯す如く男蕋花瓣に固着えて稜落るも離散することなく女蕋實房に殘るにより稜咲なれども數日間開れたるまゝ臺に保つものなり故に同じ稜花にても此を蕋ぬけと云ふ稜花のうち一層甚しきは牽牛花なり尤も終日を保たざるてとれ葩なく只一瓣の管花なるが故なり牽牛花も種〻の異り花ありて乱咲あり茶臺咲あり又菊咲の如きものあれども徒に花瓣の粧をなしたるものなればなり

金絲梅の如き此又一日花にて花粧圖の如し辧びやうの類何れも同一のものにて蕋の備り葩の配り宛がら秡花の如きものなり杜若菖蒲の類實房花とて實房と葩連着したるものにて此何れも一種の花形なり水仙の如き又蘭の如き此又一種の實房花なり圖に顯す如く萱艸、百合、小蝶花、射干など此を莖成實房と云ふ中には蘭を此の種と云ふ人あり百合は一種別のものと云ものもあれども大ひなる相違はなかるべし

圖に顯す如く河骨なるもの此又一種のものにて莖成とも共莖とも云尤も共莖と云方がよからんか然り花瓣莖とも同質なるが故數ケ月を經る時は花色變じて青色となるのみ更に花形ハ崩れることなし其他扁形なるものには艸に菫あり蔓に藤あり樹に桐の花あり桐も秋の一種俗に「フクレ」花と云ふ花形ハ片秋なり藤又は菫の花形を片咲と云烏頭の如き此を扁花と云最も菊花の如きものは花体正しきが故何れも莖葩の類なり此外花形多きことなれども萬花是に因ものと知るべし

●葉形の異名

圖に顯す如く草ものにて菫の類何れも平葉と云ものなり此うちにも形ちを異にし細平なるものあり矢の根と云あり蒲公英の如きを逆葉又ハ大鋸葉ともいへり薊の類大鋸の一種あり杜若菖蒲の類を根成と云ふ葉先は箆と云あり劔先と云もあり圓葉とハ疑冬岩蕗雪荷杜衡蕗茨等にて其内にも艶葉あり暈りと云あり木にて平葉と云は讓葉、石南花の類何れも常盤木なり廣葉ものは二種ありて椿茶山花の類を常盤廣葉と云 榛 柿 額

花紫陽花枳椇の類を二季平葉と云牡丹の類を股葉と云ふ桐葉とハ瓜の類其他葡萄の如きを云ふ藤葉とは山椒 槐 楝木欅の類をいへり柚の如きは通俗フグリ葉と云ふ其他葉名艸木ともに擧て數ふべからず

●牽牛花の事

一牽牛花は人〻愛して種を鉢に蒔又に地蒔となすものなれども何れも蔓延且細くなりて花の着遲くなるものなり此は素人の土を撰ばずして蒔が故なれば克く注意して蒔こと肝要なり何れも種を蒔には鉢又花壇を論せず田土に黒ぼく及眞土を聊交せ此を克混じ此に蒔て芽を出してより其根際をかたく壓つけ固めをけば蔓は漫りに伸びずして花の着早きのみならず數ず多く着くものなり又栽替をするには根に右の土をつけ堅く結び玉にして此を植るをよしとす玉はなりたけ固き上にも堅きほど花早咲又多くして大輪に咲かしむるハ皆此の土の法なり

一花の蔓末になりて色薄く又は小さくなりて咲くはもちまいのものなるにより花しぼめハ直ちに切とり實を結ばぬやうになし日中に日當りの極よき所へ出し日に晒らして葉の枯れて見ゆる所へ白水を葉にかゝらぬように根にそゝぐべし

花を大輪に咲かせる肥料は魚の洗汁と白水とを壺に入よく腐らせたるものをうすくして水代りに灌ぐ時ハ蔓の末に至る迄大輪に咲こと妙なり

牽牛花を夕陽迄花のしぼまぬやうにするには甘藷の蔓を砧として朝顔の蔓を接べし
此は皮接の如く寄て接り又は換接にするも接ものにて如何にも精分の强き牽牛花に
なるものにて終日花開きて中〻眺めとなる事實に妙なり併藷とあまり大きなものは
宜しからず中分のものを撰みて用る時は盆になるとも栽込に不都合なし又此蔓先を
摘みて花のみに精分をもたせたるには至極大輪の花咲て見事のものなり
牽牛花の變り花を咲かせるゝは種を鷄に喰せて其糞を共蒔にするをよしとすとあれ
共强ち其のみにて變るともいへ難く又變せざるとも云へがたし鷄に喰せたるものを
蒔其蔓に結びたる種を家鴨に喰れせ糞共に蒔其蒔たる蔓に結べる種鳩に喰はせて蒔
時は大ひに變ずるものなり其一方にハ酒に浸して蒔と云事もあれども此はあまり効
のなきものにて一層酢の方がよからんと云ふものあり然れども牽牛花の質により變
ずるものありまた更に變んせざるものあり一度變じたるものを今一度酢ゝ浸して再
三變せさせる心持にてする事あれ共此は功なきものにて時としては元の花に返るこ
とあり

花に乱菊あり又桔梗あり最上品のものに茶臺咲あり此等は何れも變り花の極なれども種を鳥に喰せ又は酒酢の類に浸などして變じたるものにあらず花の咲たる時種々の花と交らせる方を第一の良法とするものなり故に鷄鳩又は酢酒云々は只好事の人はためし見るも可なり

牽牛花を時候外に咲かせんとするには温室又は温度器を用ひて培養せば三四月の頃充分に咲ものあり

葉形之異名

尋常の葉形

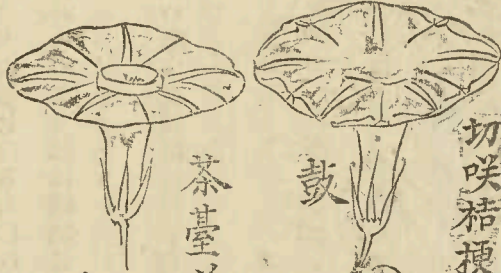
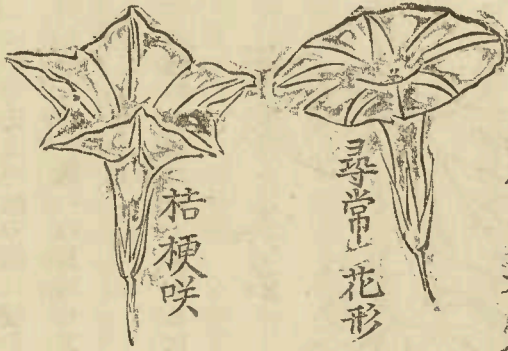
瓜葉

芋葉

長芋葉

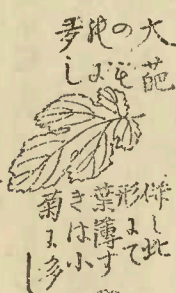
楓葉

花之異名
尋常花形
桔梗咲
切咲桔梗
鼓
茶臺咲
乱

●菊の事

一菊に夏菊あり最賞翫するものは秋菊にて夏ものにはあまり眺めとなるものなし尤も下品天性夏ものにて植替及培養に注意せざるも其節に至れば其花形を存して時を違へず咲ものなり又夏菊の上品は其元何れも秋菊にて植替時を尋常の夏菊よりも早くなし先新芽堅まり次第植替へて根の着たるを見て肥料を充分にほどこして夏の期に花を咲せるものなり又肥料ハ秋菊も同様にて又肥料を與ふる度も又同一にて蕾の見へてより肥料を多分に灌ぐときは花首伸て甚だ見苦しくなるものなり天性夏菊の質なるものに花名「多胡」「金屏風」と云もの丶類此何れも茎太にて花頸の短かきもの故肥料を過度にするもあまり害なきものなり併し此等の類變じ安きものとて此を歸ると云ものなり

一秋菊ハ最も菊の菊たる賞花にして名花の種類上げて算ふべからざるものなり秋菊は植替時は梅雨の前にして植料は尋常の畑土を克篩ひ肥土を三分の一寄砂を四分の一交せ合せて花壇に造りて植込べし菊ハ如何にも濕地を嫌ふものにて若し濕地に花壇

を造りて植る時ハ根に腐りを生じ忽ちにして枯るものなり故に成丈乾きのよき場所を撰みて深く掘りたへ豆砂利を尺斗りの厚さに布き其上へ植料の土を入れて花壇とすることなり梅雨ハ簾の屋根をかけ淋雨の降る時ハ其上より桐油をかけて掩ふ事なり

一冬至に根分けをなし床へ移しおき春彼岸に至りて又花壇なり鉢なり植替るをよしとす

大芭のを地よ多し

伴し此形よて葉薄すきは小菊よ多し

黄又ハ白菊ヨ多し

此の形のいもの

くに咲のもの又は針の花なるもの多し

丁子咲

志賀の都

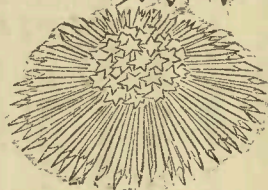
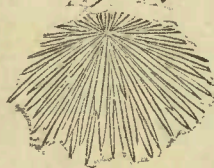
翁

大伴

高砂

麾の類

丁子咲翁高砂何れも同種類の出ものなり　志賀の都の如きは別種なり　大伴金銀の麾同種のものなり

万年青の事

萬年青ハ其説區々にして素草五種と著したるものあれはまた七種と定るしたるものあり或は十種と云しものあり此何れも其取所ありてのことにて素艸の最も早きは大葉より生したること疑なし併し「都の城」ハ「日の本」より出たる艸と云説あれとも何れより出たるとハ云がたし此の種及「秋津洲」の類皆廣葉の類にて都の城は並の立葉にて「秋津洲」ハ鍬形の違あるのみなり其他廣葉の類に種々あれとも此の艸類を蒔かへしたる毎に變じてなれるものとしるべし巻葉にも廣葉と細葉との二種あるものにて大葉のものハ「大鷲」の類より出たるものと云へり然れとも他性のものより出ることもある例しあれバ他日の咎めを受けざるが爲めかくは定るしたるなり細葉の巻葉は「片男波」の類よりも出て又「大名」よりも出るものにて斑入及縞ものゝ類ハ「永島」「神代」「大太刀」の類より出たるものなり「向龍」其他の乱形ハ多く「久安寺」の種より出づるものなれども「志賀ら美」より出たるもあり其他の種より變じたる事見たることあり其他縞もの紋葉の類に黄縞、白縞、宗積にも明石あり又殘雪あり縞鼈甲あり博多あり「江戸鹿の子」あ

り「上卷」あり「刷目」あり又「刷目蚊すり」あり「日の出」あり「星班」あり「星影」あり殊に星影などの班入りは「砂子」より出たるものにて星あれども發揮せずして高賞のものなり其外種〻のものあれども何れも同樣にて類別にくるしみながら却て乱雜して分り難き事多し故に其概畧をしるすのみ

草木圖解 盆栽培養全書 畢

明治廿九年七月廿一日印刷
明治廿九年七月廿四日發行
明治三十年六月十二日再版印刷
明治三十年六月十八日再版發行

定價金五十錢

著者兼發行者 東京市神田區鍋町廿一番地 井口松之助
印刷者 東京市日本橋區通二丁目十七番地 青木恒三郎
製本發賣所 大阪市東區心齋橋通博勞町角 青木嵩山堂
發賣所 東京市日本橋區通二丁目角 青木嵩山堂
印刷所 大阪西區土佐堀三丁目三十八番屋敷 嵩山堂印刷部
賣捌所 勢州四日市港竪町 嵩山堂支局
全 京都市寺町二條下ル 山田芸艸堂

明治廿九年七月廿一日印刷
明治廿九年七月廿四日發行
明治三十年六月十二日再版印刷
明治三十年六月十八日再版發行

著者兼發行者　東京市神田區鍋町廿一番地　井口松之助
印刷者　東京市日本橋區通一丁目十七番地　青木恒三郎
製本發賣所　大阪市東區心齋橋通博勞町角　青木嵩山堂
發賣所　東京市日本橋區通一丁目角　青木嵩山堂
印刷所　大阪西區土佐堀三丁目三十八番屋敷　嵩山堂印刷部
賣捌所　勢州四日市港竪町　嵩山堂支局
仝　京都市寺町二條下ル　山田芸艸堂

定價金五十錢